



# 地域ささえあい助成 2014年度 活動報告集



生協と他団体が  
協同する活動を  
応援します!





# はじめに

日本コープ共済生活協同組合連合会(以下、コープ共済連)では、2012年度社会貢献活動として「CO・OP共済 地域ささえあい助成」を開始し、2014年度に3年目を迎えました。

生協は、暮らしを向上させることを目的に事業を進めていますが、昨今の少子高齢化、貧困など暮らしに関する困難さは、地域社会全体に目を向け、他団体・行政とも一緒になって必要な取り組みを行っていかねば、解決できない状況になってきています。そのため、本助成では、生協と他団体がネットワークを形成しながら問題を解決していく活動を支援することにしており、次の3つのテーマにそった、生協と他団体が協同行う取り組みを助成の対象としております。

- ①暮らしを守り、暮らしの困りごとの解決に資する
- ②命を守り、その人らしい生き方ができるようにする
- ③女性と子どもが生き生きする

2014年度は82件のご応募をいただき、審査委員会において40件、2,058万2,597円の助成を決定しました。なお選定にあたっては、次の選考基準を設け審査を進めました。

## 選考基準

- ①生協と地域の他団体との協同により成り立つ活動であること、②計画の実現性、③予算計画の妥当性、④対象者のニーズに基づく活動であること、⑤多様な地域住民の関わりや参加度合、⑥地域に根差した取り組みであること、⑦活動の新規性や先駆性

※2012、2013年度からの継続助成となった団体では、取り組みの発展性にも着目しました。

※協同行い取り組みができているかという点では、他団体と協同することで新たな広がりが期待できるか、または、生協がしっかり役割を發揮できているかを着眼点としました。

## ●●活動3年目を迎えて

本助成は2014年度で3年目を迎えましたが、継続して助成を受けている団体では、経年に応じて発展的な実績を残しています。2014年度に助成を受けた活動のうち、2012年度または2013年度から継続した活動は14件ありました。一部をご紹介しますと、テーマ①「暮らしを守り、暮らしの困りごとの解決に資する」に該当する活動として3年連続で助成を受けた松江保健生協は、協同行い団体とともに2014年度中に「地域つながりセンター」を設立し地域に根差した活動体制を確立しています。テーマ②「命を守り、その人らしい生き方ができるようにする」について同じく3年連続助成を受けた「支援者のための支援センター TOMONY」では活動エリアを宮城県から福島県へ広げ、活動内容に広がりが出しています。また、テーマ③「女性と子どもが生き生きする」については、福島子どもたちを他県に招待する取り組みについて、本年も各団体に対し一律の額を支援することとしました。

## ●●さらなる活動の促進を目指して

テーマ③「女性と子どもが生き生きする」については、コープ共済連の事業とも関連する重要なテーマの一つですが、他のテーマの活動と比較して応募件数が少ない傾向がみられました。そこで、2014年度中に日本生協連の協力のもと、子育て活動をおこなっている他団体へ生協との協同行いについて打診を行い、次期の活動の芽が生まれています。地域でのネットワーク形成の促進や助成応募を活発にするためには、助成の条件の一つである「協同行い取り組み」について事例を紹介し、モデルを明らかにする取り組みが効果的です。そのため、2015年2月に開催された日本生協連 関西地連における福祉交流会では、助成団体の事例報告を実施しました。今後もこのような地域における協同行い事例の普及や交流も活用し、さらに活動が促進することを期待しています。

2014年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成 審査委員会  
委員長 上野谷 加代子(同志社大学 社会学部 教授)

- はじめに ..... 1  
2014年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成 審査委員会  
委員長 上野谷 加代子(同志社大学 社会学部 教授)
- 2014年度 「CO・OP共済 地域ささえあい助成」助成先一覧 ..... 4

## 活動報告集

テーマ  
1

暮らしを守り、暮らしの困りごとの解決に資する



- 特定非営利活動法人 くくのち  
過疎地域買物支援事業 ..... 7
- 東京西部保健生活協同組合  
オレンジカフェ大原 ..... 8
- 生活協同組合おおさかパルコープ グループさざ波  
視覚障がい者の生活向上 ..... 9
- 庄内医療生活協同組合（上郷支部）  
たまり場「ちよさんの家」を中心に、地域の魅力を発揮した生きがいづくり ..... 10
- 特定非営利活動法人 市民後見センターさいたま  
一人暮らし要介護高齢者の暮らしの支援と権利擁護活動 ..... 11
- NPO法人たすけあい翁  
家事援助活動 地域貢献活動としてサロン開催 ..... 12
- 東日本大震災復興支援 京都生協職員ボランティア  
海の虹プロジェクトin京都 2014 ..... 13
- 守りたい・子ども未来プロジェクト実行委員会  
避難者交流会 ..... 14
- 消費者信用生活協同組合  
社会から孤立し生活困窮に陥っている方や一般金融機関に排除された方、契約トラブルに巻き込まれた方など、  
経済的な問題を抱えた方を支援する各相談機関合同によるワンストップ相談会の開催と告知活動 ..... 15
- 鳥取県生活協同組合  
まちなか暮らし助け合い活動 ..... 16
- 松江保健生活協同組合（「あったか地域づくり協議会」）  
地域や暮らしから連携課題を浮き彫りにし、具体的な連携のカタチを共に描いていく ..... 17
- 広島県生活協同組合連合会  
地域活性研究会による地域活性化策の生協事業モデル、指針づくり ..... 18
- いばらきコープ生活協同組合  
牛久市での移動店舗による買物支援・生活支援 ..... 19
- 石巻仮設住宅自治連合推進会  
～みんなでつくろう～ 春のお料理会 ..... 20
- 北海道生活協同組合連合会  
福祉プロジェクト ..... 21
- 生活協同組合コープながの  
暮らし支えあいをひろげるための学習とつどい「暮らし支えあいボランティア講座」「認知症と介護について話す集い」 ..... 22



テーマ  
2

## 命を守り、その人らしい生き方ができるようにする



<b>生活クラブ生活協同組合 神奈川</b>	
東日本大震災 復興支援まつりの開催	23
<b>うごく七夕まつり荒町実行委員会</b>	
被災地区伝統のお祭りの山車製作ボランティア支援	24
<b>市民生活協同組合ならコープ</b>	
なんゆう祭2014	25
<b>支援者のための支援センターTOMONY</b>	
東日本大震災の被災者支援に取り組んでいる人を支援する活動	26
<b>特定非営利活動法人 応援のしっぽ</b>	
東日本大震災後に生まれた多種多様なコミュニティの存続のための運営支援	27
<b>生活協同組合あいコープみやぎ</b>	
お茶っこケア 地域サロン よってがいん	28
<b>反貧困ネット長野</b>	
生活困窮者等の相談・支援活動と生活自立支援活動	29
<b>NPO法人 セカンドリーグ埼玉</b>	
2014年度第3期アレルギーサポーター養成講座	30
<b>コモンズ葛西協議会</b>	
コミュニティカフェ虹の空でいきいき地域まちづくり	31
<b>特定非営利活動法人ソーシャルビジネス推進センター</b>	
過疎市町村における介護予防事業を協同で立ち上げる	32
<b>福島子ども保養プロジェクトin神奈川実行委員会（神奈川県生活協同組合連合会）</b>	
2014福島子ども保養プロジェクトin神奈川	33
<b>福島子どもたちとともに湘南の会</b>	
2014夏ふくしまっ子リフレッシュ in 湘南&こどもの国	34

テーマ  
3

## 女性と子どもが生き生きする



<b>水橋福祉事業所連絡会</b>	
いつまでも安心して、元気で暮らし続けられるまちづくりを地域ぐるみで取り組む	35
<b>大高南学区連絡協議会</b>	
名古屋市緑区大高南学区における「子どもたちの豊かな遊び場づくり事業」	36
<b>NPO法人京都子育てネットワーク</b>	
京都子育てスクール～母力を活かして乳幼児親子・子育て仲間の絆作りを～	37
<b>特定非営利活動法人 子育て支援 ぽけっと</b>	
乳幼児の子育て・食育を通して虐待予防を！ テーマ型子育て広場の開催	38
<b>福井県民生活協同組合 ハーツきっず羽水</b>	
出張型子育てひろばの開催	39
<b>福島移住女性支援ネットワーク（EIWAN）</b>	
夏のリフレッシュツアー 京都	40
<b>NPO法人福島子どもたち香川へおいでプロジェクト</b>	
2014高松市男女共同参画市民フェスティバル／平成26年度西郷村リフレッシュ支援事業（香川コース）／「原発震災から4年…今、私たちにできること」	41
<b>常総生活協同組合</b>	
地域に生きる子育て情報コミュニティ『知る見るCafé』～関東汚染地域の母親たちの子育て応援企画～	42
<b>北医療生活協同組合</b>	
親子がいそいそ育つまちづくり	43
<b>NPO法人こども環境活動支援協会（LEAF）</b>	
未就園児親子のための森の子育て支援事業	44
<b>特定非営利活動法人わくわくらぶ</b>	
子育て支援施設の開設	45
<b>エフコープ生活協同組合</b>	
第3回みんなであくし&ふくふくプラザまつり	46
<b>2014年度 募集要綱</b>	48

# 2014年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成 助成先一覧

## 1 暮らしを守り、暮らしの困りごとの解決に資する

### 特定非営利活動法人 くくのち

- 生活協同組合コープいしかわ

### 東京西部保健生活協同組合

- 杉並区社会福祉協議会

### 生活協同組合おおさかパルコープ グループさざ波

- 筑波大学 学術情報メディアセンター
- 社会福祉法人 日本ライトハウス情報文化センター

### 庄内医療生活協同組合（上郷支部）

- 上郷地区熊野長峰MG研究会
- 鶴岡市大谷自治会
- 鶴岡市上郷地区自治振興会
- 生活協同組合共立社
- 庄内医療生活協同組合
- なんば助産院

### 特定非営利活動法人 市民後見センターさいたま

- コープみらい埼玉県本部
- 東京大学政策ビジョン研究センター  
市民後見研究実証プロジェクト

### NPO法人たすけあい翁

### 東日本大震災復興支援 京都生協職員ボランティア

- あやべ新しい田舎の学校
- 綾部市立何北中学校、同PTA

### 守りたい・子ども未来プロジェクト実行委員会

- 神奈川県生活協同組合連合会
- 公共財団法人横浜YMCA
- 神奈川県ユニセフ協会

### 消費者信用生活協同組合

- NPOいわて生活者サポートセンター
- 県社協・盛岡、北上、釜石、一関の各市社協
- 盛岡市消費生活センター
- 岩手弁護士会消費者問題対策委員会

### 鳥取県生活協同組合

- 地域福祉ネット まちなかサービス

### 松江保健生活協同組合（「あったか地域づくり協議会」）

- 島根県農業協同組合
- 生活協同組合しまね
- 社会福祉法人松江市社会福祉協議会
- 松江地区社会福祉協議会会長会

### 広島県生活協同組合連合会

- 一般社団法人リエゾン地域福祉研究所
- 広島県生協連会員生協  
（生協ひろしま、広島中央保健生活協同組合、  
広島医療生活協同組合他）
- 広島修道大学
- 広島市佐伯区役所
- 中国新聞社論説委員会

### いばらきコープ生活協同組合

- 牛久市
- 牛久市社会協議会
- 牛久市地域包括支援センター

### 石巻仮設住宅自治連合推進会

- みやぎ生活協同組合

### 北海道生活協同組合連合会

- 生活協同組合コープさっぽろ
- 北海道医療生活協同組合
- 社会福祉法人ほくろう福祉協会
- さっぽろ高齢者福祉生活協同組合
- 北海道住宅生活協同組合
- NPOソーシャルビジネス推進センター
- 札幌医療生活協同組合
- ワーカーズコープさっぽろ

### 〈協力団体〉

- 社会福祉法人札幌市社会福祉協議会
- 北星大学杉岡研究室

### 生活協同組合 コープながの

- 長野市社会福祉協議会
- 認知症の人と家族の会長野県支部

16団体 8,522,800円

## 2

## 命を守り、その人らしい生き方ができるようにする

## 生活クラブ生活協同組合 神奈川

- 神奈川W.Co連合会
- NPO法人WE21ジャパン
- NPO法人地球の木

## うごく七夕まつり荒町実行委員会

- 生活協同組合コープあいち

## 市民生活協同組合ならコープ

- 奈良県
- 奈良県五條市
- 奈良県生活協同組合連合会

## 支援者のための支援センターTOMONY

- みやぎ生活協同組合
- 一般社団法人 コミュニティ・4・チルドレン
- 地域社会デザイン・ラボ

## 特定非営利活動法人 応援のしっぽ

- みやぎ生活協同組合

## 生活協同組合あいコープみやぎ

- NPO法人お茶っこケア
- NPO法人井戸端介護

## 反貧困ネット長野

- 長野生活・就労支援センター
- シングルマザー支援協会長野県支部
- NPO法人なかじょう

## NPO法人 セカンドリーグ埼玉

- NPO法人アトピッツ地球の子ネットワーク
- アレルギーサポートネットワーク埼玉  
第2期修了者のネットワーク
- さいたま朝日編集室
- 生活協同組合パルシステム埼玉
- パルシステム生活協同組合連合会

## コモンズ葛西協議会

- 社会福祉法人江戸川豊生会
- 葛西第2スカイハイツ・なぎさ自治会
- 生活協同組合コープみらい
- 子育てくろーばー
- NPO法人なぎさ虹の会

## 特定非営利活動法人 ソーシャルビジネス推進センター

- 生活協同組合コープさっぽろ
- 北翔大学

## 福島の子ども保養プロジェクトin神奈川実行委員会

- 神奈川県ユニセフ協会
- 守りたいこども未来プロジェクト

## 福島の子どもたちとともに湘南の会

- 生活協同組合ユークープ藤沢市エリア会
- 医療生協かながわ生活協同組合藤沢診療所
- こどもの国

### 3 女性と子どもが生き生きする

#### 水橋福祉事業所連絡会

- 富山医療生活協同組合
- 富山県生活協同組合連合会

#### 大高南学区連絡協議会

- 特定非営利活動法人 こどもNPO
- 大高南小学校PTA／大高南小学校
- 南医療生活協同組合

#### NPO法人京都子育てネットワーク

- 生活協同組合 生活クラブ京都エル・コープ
- ハッピー・ポティー
- donan donan
- び〜んずベビー教室
- この本だいすきの会京都
- 京都YWCA親子ライブラリー
- 京都エトワール合奏団
- Atelier nico
- MamaPHOTO HOT
- リトミカル音楽教室
- ラボ教育センター
- カラーセラピー講座

#### 特定非営利活動法人 子育て支援 ほけっと

- 大阪いずみ市民生活協同組合
- 社会福祉法人 松原市社会福祉協議会

#### 福井県民生活協同組合 ハーツきっず羽水

- 本郷地区子育てサークル「ぼっかぼか」
- NPO法人生涯体育学習振興機構
- NPO法人子どものための音楽教室
- NPO法人パパハンズ
- 助産師ネットワーク たね
- 子育てサークル ママさんプラス「ふくびよ隊」

#### 福島移住女性支援ネットワーク (EIWAN)

- 生活協同組合 コープふくしま
- 公益財団法人京都YWCA
- ハワクカマイ福島

#### NPO法人福島の子どもたち香川へおいてプロジェクト

- 高松市
- 生活協同組合コープ自然派しこく
- 香川こどもといのちを守る会
- NPO法人グリーンワークかがわ
- 西郷村教育委員会
- 高松市消防職員協議会
- 高松市立川島小学校と弦打小学校
- 高松市レクリエーション協会
- ギター・マンドリン・アンサンブル・ピアノシモ
- 讃岐国分寺太鼓保存会
- NPO法人えひめ311
- えんじょいんと香美

#### 常総生活協同組合

- 放射能から子どもを守ろう関東ネット

#### 北医療生活協同組合

- めいほく子育て支援センター
- 上飯田児童館
- 名北福祉会 (めいほく保育園・第2めいほく保育園)

#### NPO法人こども環境活動支援協会 (LEAF)

- 生活協同組合コープこうべ
- 西宮市立子育て総合センター
- 富国生命保険相互会社
- 西宮市社会福祉協議会

#### 特定非営利活動法人わくわくくらぶ

- 福井県民生活協同組合

#### エフコープ生活協同組合

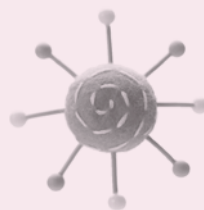
- 福岡市市民福祉プラザ・旭商会共同事業体
- 福岡市ボランティア連絡協議会

12団体 4,938,797円

※一部、申請金額より減額により助成とする

総合計 (40団体／応募:82団体) : 20,582,597円

テーマ  
1



くらしを守り、  
くらしの困りごとの  
解決に資する









## 活動名 過疎地域買物支援事業

協同した団体 ★生活協同組合コープいしかわ

### 活動内容概要

金沢市東原町にある地域のコミュニティスペース「マチオモイ」を拠点に、過疎地域での買い物支援を行いました。

- ①東原町の21世帯の各組合員宅にカタログを配布する。
- ②そのカタログから欲しい物を選んで注文書に記入し、月・木曜日に「マチオモイ」に持ってきてもらう。
- ③「マチオモイ」のスタッフが注文書を整理し、コープいしかわたまぼこ店に発注する。
- ④火・金曜日にたまぼこ店から「マチオモイ」に配達してもらい、各注文者毎に商品をピッキングする。

という流れで行っていました。また、より住民の利便性向上を図るため、「マチオモイ通信」を通しての情報共有や、利用単価の大きい組合員さんへの手数料負担の軽減、地域外の方にもこの取り組みを知っていただくため、「東原ふれあいフェア」などを開催しました。

マチオモイの構成図



「東原ふれあいフェア」の様子

### 他団体と協同することで発見したこと

コープいしかわには、店舗からの商品供給、東原町までの配送を担ってもらっています。現状の報告、提案、利用組合員からの聞き取り結果についての分析などの意見交換をすることで、異なった立場から具体的な意見をいただけるので、改善へとつなげていけると考えています。

### 成果と教訓

- 成果**
- 今年移住してきた若者が「マチオモイ」通信を発行しました。
  - 里山の旬の「食」と里山を体験してもらうイベント、「東原ふれあいフェア」に500人が参加し、交流人口の拡大に繋がりました。今回の参加スタッフは、地域住民、学生、当法人と合わせて50人程度となり、スタッフの参加人数も増加してきました。
  - 今年の視察件数は、3件でしたが、「マチオモイ」で地域農産物の加工商品の販売を始めたこともあって、視察で来訪された方々がお土産品として購入してくれるようになりました。

**教訓** 地域課題に取り組むためには、単体では困難なことも、異なる主体が連携して、情報を共有・計画→実行→評価→改善を繰り返していくことで、問題の解決へとつながっていくと実感できました。不定期ではありますが、利用者にアンケート調査を実施して意見を取り入れていますが、まだ潜在的な問題があるようなので、ヒアリングを細目に実施していく必要があると考えます。

### 将来イメージ

「マチオモイ」を地域の困りごとの解決や都市住民と地域住民の交流拠点へと発展させていきます。



## 活動名 オレンジカフェ大原

協同した団体 ★杉並区社会福祉協議会

### 活動内容概要

伊勢田 堯先生による「高齢者のメンタルヘルス」の連続講座を3回行いました。

橘家扇三師匠による落語会を2回開催しました。  
「オレンジカフェ大原」を計10回(毎月)開店しました。



### 他団体と協同することで発見したこと

高齢者の置かれている現状をより深く理解することができました。

それぞれの団体、組織とも立派な仕事をしてはいますが、個人情報保護により横の連絡が取りづらかったため、招待券をつけたチラシにするなどの工夫をして、老人会にチラシ配布をお願いしました。

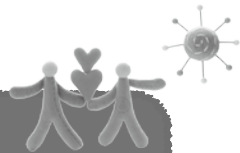
### 成果と教訓

**成果** 講演会：3回開催し、延べ112名参加しました。  
落語会：2回開催し、延べ60名参加しました。  
カフェ：6月から3月まで毎月開店し、延べ65名参加しました。  
そのほか、アンケートへの回答は38通ありました。

- 教訓**
- 関心を持ってもらいやすい講演会の内容だと思っていましたが、地域に1,000枚のチラシをまいたものの参加連絡がなかなか来ませんでした。参加人数の確定ができず、老人会や町会への挨拶などを通じて参加のお願いを早い段階ですべきでした。
  - 高齢者のメンタルヘルスと、認知症を混同して聞きに来られた方は少し不満が残った様子でした。ある程度断定的に「こうすれば認知症になりませんよ」という話の方が聞いている人は安心できるようです。主催者側にも混同している所があり、初回は認知症になりそうな年齢の人を誘っていましたが、2回目から、サポーターになれる年代の人に、焦点をあてて参加者を募りました。
  - 老人会などと講演会のための実行委員会をつくり、共同で取り組みれば良かったです。認知症になっても安心して徘徊できる街とはどうあるべきか、認知症という病気への理解が少し深まったと思います。
  - 連続講座(3回分)の日程を、はじめから提示できたことは良かったです。
  - 病院や施設の家族会には参加できるが、「オレンジカフェ大原」の認知度が低く、参加人数は増えませんでした。次年度は杉並区の家族会マップに「オレンジカフェ大原」についても掲載してもらえることになりました。
  - 毎月の「オレンジカフェ大原」で、もっと介護技術などを取り入れたかったです。

### 将来イメージ

ご家族の悩みを聞くだけでなく、認知症のご本人やそのご家族も含めて、安心して暮らせる街づくりを目指します。また、サポーターを多く募り、お花見や、紅葉狩りなどのバス旅行が出来たらいいなと思っています。サポーターのバス代が半額に出来るよう資金活動もしたいと思います。



## 活動名 視覚障がい者の生活向上

協同した団体 ★筑波大学 学術情報メディアセンター ★社会福祉法人 日本ライトハウス情報文化センター

### 活動内容概要

「店の商品のパッケージを開ける前に中身が知りたい」という視覚に障がいのある方々の声に応え、パソコンや携帯電話を使いパッケージに印刷されている「バーコード」を読み取ることで人の目を借りずに商品情報を知ることができるソフト「Barcode-Talker(無償配布)」及び、その情報を二次元コード化し、シールにして発行するシステム(おおさかパルコープ つるみ店で実施しているサービスです)の紹介および、普及活動をするため、全国各地で行われる福祉機器展などに出席しました。

また、視覚障がい者が携帯電話のカメラ機能を使って読み取るのは大変難しいため、それを手助けするための補助具として読み取り台「らくらくヒデ坊」を開発し、無償配布しました。



Barcode-Talker  
(パソコン版&携帯版 無償ソフト)



日本ライトハウス展にて  
来場者に説明している様子

### 他団体と協同することで発見したこと

スマホ用のアプリの開発において、筑波大学と一緒に機器展に参加して利用者さんと意見交換をしながら改善点を見つけていき、素早い対応ができました。

日本ライトハウスでは、普段から視覚障がい者のパソコンや福祉機器の操作方法などのサポートをされているほか、盲ろう者や視覚障がい者のための福祉機器が揃っているため、使用に際しての検証にもご協力いただきました。日本盲人会連合(日盲連)をはじめ多くの他団体とつながりができ、福祉機器展の出展依頼やパンフなどの郵送依頼など活動の幅が広がりました。

### 成果と教訓

- 成果**
  - ・西日本最大の福祉機器展「バリアフリー展(来場者数：96,005人)」に参加し、視覚障がい者だけでなく、多岐にわたる来場者に説明・紹介ができました。
  - ・盲ろう者の使用が可能かについての検証を日本ライトハウスの協力により実行できました。
  - ・機器展で配布した分および、化学研究所 網膜再生医療研究開発プロジェクト、日本盲人会連合等からの依頼でパンフレット2,500枚、らくらくヒデ坊(携帯電話で読み取るための補助具)1,200個を提供しました。
- 教訓**
  - ・視覚障がい者だけでなく、盲ろう者も使用できるかなど、もう少し視点を広げて活動を行なえるようにいろんな角度から検証しておくことが必要だと思いました。
  - ・データベースに登録されていない商品の大半が「生協商品」ということがわかったためすぐに登録のお願いをしなければと思いました。

### 将来イメージ

同じ形状の物でも何の心配もなく、欲しい時に欲しいものが買えて、食べたいときに食べたいものを自分で作って食べられる。そんな生活を送ってほしいと考えています。



# 庄内医療生活協同組合（上郷支部）



## 活動名

たまり場「ちよさんの家」を中心に、  
地域の魅力を発揮した生きがいづくり

## 協同した団体

★上郷地区熊野長峰MG研究会 ★鶴岡市大谷自治会 ★鶴岡市上郷地区自治振興会  
★生活協同組合共立社 ★庄内医療生活協同組合 ★なんば助産院

## 活動内容概要

- 病気しても寝たきりにならないように、週1回の介護予防教室
- 医療・介護に関する学習会、研修会
- 生きがいのある人生を過ごすための、エンディング・ノート教室
- 産前・産後のケア・ベビーママカフェ教室
- 心身のリフレッシュのための、里山自然ハイキング教室
- 里山活用の原木きのご栽培などのミニ農園教室
- 買い物に困っている地域の高齢者、住民の買い物支援・せいきょう便の運行
- 庭先に咲いている自然の花を描いてみよう、絵手紙教室



## 他団体と協同することで発見したこと

- 空き家を利用する活動は、防災上、地域環境上などの面で、地元自治会からはとても喜ばれました。同時に、私たちが困ったときの身近な相談相手になって頂き、安心して活動できることがわかりました。
- 地元のグループや団体の人たちは、里山ハイキングのガイド、ミニ農園の提供と栽培技術の指導など、何でも教えてくれますのでとても助かっています。すばらしい助言者であることをあらためて実感しています。
- 地区の自治振興会また自治会では、お茶のみサロンや研修会などで私たちに講師の依頼があり、その時は一緒に開催しました。地域の人たちとの協力の輪が広がっていること、そして地域との関わり方がわかってきました。

## 成果と教訓

**成果** ちよさんの家の活動に参加している人たちの顔が微笑ましく、生き生きしていると周りから言われます。この活動を通じて、心身がリフレッシュし、健康的な生き方が身についてきたように思います。週1回開いている介護予防教室は、参加者一人ひとりに確実にその効果があらわれているように思います。ひざや腰の痛みがとれてきた、つまずかなくなった、身体が軽くなったなどと話し合っています。

**教訓** この1年間、健康づくり、なかまづくり、生きがいづくりに取り組んできましたが、その結果、「地域から1人ぼっちのお年寄りをなくそう」の目的は、着実に進んできたと思います。特に、介護予防教室の取り組みは、私たちの生活に健康の大切さを教えてくれています。

## 将来イメージ

これから地域包括ケアシステムの時代に向けて、私たち自身もっと自主的な力を身につけなければと思います。また、地域のお年寄りや認知症の人たちのささえあい、助け合いの場として、これからも信頼されるよう、楽しく、仲良く活動していきたいと思っています。





## 活動名

一人暮らし要介護高齢者の暮らしの支援と権利擁護活動

## 協同した団体

★コープみらい埼玉県本部  
★東京大学政策ビジョン研究センター市民後見研究実証プロジェクト

## 活動内容概要

コープみらい埼玉県本部と打ち合わせを重ね、「暮らしの課題解決セミナー」というタイトルで、事例報告を中心にセミナーを開催しました。第1弾は「超高齢社会と生活支援セミナー」という副題で主にミニハート会員を対象に5箇所にて開催しアンケート調査も実施しました。第2弾は「成年後見制度と生活支援サービス」という副題で、3箇所にて開催し、ミニハート会員のコーディネーションのもと地域の高齢者組合員を対象に昼食を共にとりながらのセミナーとなりました。



「暮らしの問題解決セミナー」の様子

## 他団体と協同することで発見したこと

食事会やセミナーを通じ、地域高齢者との定期的かつ継続的なコミュニケーションが地域コミュニティの元気や安心につながっているとの印象を強く感じました。

## 成果と教訓

**成果** 8回のセミナーの開催によって、多くのミニハート会員(55名)、高齢者会員(50名)、その他(37名)の参加を得て、超高齢社会の現状と成年後見制度の必要性をご理解いただきました。活動を通じて、市民後見センターさいたまへの高い信頼を得ることができ、安心して相談や紹介をすることができるとの評価をいただきました。

**教訓** ミニハート会員による地域高齢者組合員への地道かつ継続的なフォローの実際を体験して当NPOとしても直接地域の高齢者と継続的にコミュニケーションをとる仕組みを構築することが大切であると思いました。生活支援サービスの実施及び後見人受任にあたっては組合員との信頼関係の構築がまず最初に必要と認識しました。

## 将来イメージ

コープみらいミニハート会員との協業を中心にコーププラザ施設を企業・団体とのネットワークで活用し地域のワンストップステーション機能の構築を目指します。従来のコンテンツに加え、居場所、相談、交流、イベント、介護・デイサービス、医療機能等を備えることで、尊厳死、相続、死後事務、後見等トータルな問題解決に対応します。



# NPO法人たすけあい翁

## 活動名

家事援助活動 地域貢献活動としてサロン開催

## 活動内容概要

「住み慣れた地域で最期まですごしたい」の願いをもとに、3年の話し合いの結果「NPO法人たすけあい翁」を26年2月に設立しました。「大人の部活」と称してシニア世代向けに興味があるものを計画しました。なかなか人の集まりが悪く苦慮しております。

当初他団体と協同して取り組みたいと計画に入れましたが、現実には事務所移転などもあり、話し合いに参加できる活動に手が回りませんでした。たすけあいの活動は自治体関係から問い合わせがあり、家事援助活動として展開しています。

地域貢献として個人のお家をお借りして、サロンも手がけました。他団体と同じ内容で方針が一致することが多々あり、取り組みたいと思っておりましたが残念ながら具体化できませんでした。

行政、購買生協、医療生協も地域である自治会組織でもサロンを開くことで、地域づくりをどうしていくかということが課題となっています。NPO法人たすけあい翁は、介護保険改正に伴う保険以外のところでの自立の援助が出来るよう努力してまいります。



## 他団体と協同することで発見したこと

協同にむけて話し合いはしましたが具体的に企画できませんでした。

## 成果と教訓

### 成果

- サロンを継続できていることです。(5人×30回 150人)
- 野外に出て行く活動などの企画も大事なことに認識しました。(5人×1回 5人)
- 企画者自身が楽しめる企画から広げていくことが大切なことです。

### 教訓

具体的な話し合いを進めない限り始まって行かないと考えます。  
準備不足で助成金をフル活用できませんでした。

## 将来イメージ

サロンになる拠点を多く作り上げて行きたいです。  
外出できない方などのお宅がたまり場の様になっていくことを目指します。



## 活動名

海の虹プロジェクトin京都 2014

## 協同した団体

★あやべ新しい田舎の学校 ★綾部市立何北中学校、同PTA

## 活動内容概要

宮城県南三陸町の志津川中学校、歌津中学校から中学生29名(うち、リピーターが14名)を京都に招き、『第3回/海の虹プロジェクト』を開催しました。

これからの復興の担い手となっていくであろう南三陸町の中学生たちが、京都のたくさんのボランティアスタッフや地域の方々とふれあい、様々な企画と一緒に体験する中で、南三陸町の再生について考えていくこと、そして遠い京都の地にも南三陸町の復興を願い応援している多くの人々がいるということを知ってもらうことを目的として開催してきました。



子ども達が主体となり話し合いをする様子



紙ひこうき競技会の様子

## 他団体と協同することで発見したこと

今回は悪天候により、野外での活動がほとんどできない状況になり、急遽「かんばやし紙ひこーき倶楽部」の方にご指導いただきながら、皆で競技会を実施したことや、昼食づくりを地域の方のお手伝いをいただきました。地域の方のお力を借りながら、子ども達が主体となって話し合う姿に、地域の力と子どもたちに内在する力を信じることの重要性を改めて感じました。

## 成果と教訓

- 成果**
- 参加した中学生29人。京都生協ボランティアスタッフのべ120人。協力いただいた団体、地域のボランティアスタッフのべ80人でした。
  - 昨年同様に、宮城県南三陸町の中学生たちに、自立すること、挑戦すること、助け合うこと、人々のつながりを大切にしていくこと、等について、様々な体験を通じて考えるきっかけをつくるという目的を十分に達成できたと考えています。
  - 今回もメインステージとして京都の山深い中山間地の2つの農村(志賀郷と古屋)を設定し活動を予定していましたが、悪天候のために野外での活動は中止となりました。このため、活動内容は、子ども達を中心として、当日の活動内容について話し合いの場を持ち決めて行きました。そのことで、過去2回よりも、子ども達同士が話をする機会が増え、これまで話したこと無かった先輩・後輩とも話すことができ、参加者間の距離がぐっと縮まりました。

**教訓** 昨年は、当初の想定よりも倍近くの子供達を受け入れたことで、財政面や、受け入れ態勢側にも負荷がかかりました。今年度は募集人数を明確にして募集をしたことで、想定内におさまり、しっかりと子ども達の話し合いをベースにしながら活動を進められたと思います。

## 将来イメージ

3年半に渡って支援活動を続けてきた宮城県南三陸町では、復旧、復興にむけた取り組みが少しずつ動き始めているとはいえ、その道のりはまだまだ遠いと言わざるを得ません。被災したすべての人々をこれからも応援し続けるのはもちろんのこと、とりわけ子どもたちに対してある意味「特別な応援」が必要であると考えています。これからも子どもたちを見守り、応援し続けていくためにも、この取り組みを引き続き継続していきたいと考えています。





## 活動名 避難者交流会

### 協同した団体

- ★神奈川県生活協同組合連合会
- ★神奈川県ユニセフ協会
- ★公共財団法人横浜YMCA

### 活動内容概要

- ・期間中に県内避難者交流会を8回実施、延べ454人が参加しました。
- ・避難者からの相談などをふくしまカフェで適時行いました。
- ・情報誌「わらしこ」を12回発行しました  
(発行部数：4,204部)。
- ・お料理サークル「ままだおる」を実施しました  
(12回実施、61人参加)。
- ・福島の子ども保養プロジェクトを実施しました  
(助成金対象外の活動、40人参加)。



### 他団体と協同することで発見したこと

神奈川県生活協同組合連合会との協同では、生協の皆様のご協力を得ることで、避難されている保護者の悩みなど、同じ子育て世代やすでに子育てが終了した先輩の皆様のアドバイスを受けることができました。

公益財団法人YMCAには、施設の手配や備品の貸し出しなど広く活動にご協力いただきました。子どもの心身の問題に対して専門的なアドバイスやより専門的な機関をご紹介いただきました。

その他、学生の皆さんに多大なご協力をいただきました。子どもたちと年齢の近い学生が参加してくれたことによって、保護者の皆さんも安心して交流会に参加することができました。

### 成果と教訓

**成果** 避難している皆さんの望んでいることが、物質的な支援ではなく、心の拠り所にシフトしていることがわかりました。物の提供ではなく、交流会のような場がほしいと言われる方が多いと感じました。

2013年度までは、避難者交流会では避難者の心情を考慮して、外部の団体のボランティア参加は実施していませんでしたが、今年度は避難者の皆様に配慮できる外部の団体にお手伝いいただきました。特に生協の組合員の皆様、被災地支援をしている高校生の皆様に人的な支援をいただき、避難者自身が外の人へのつながりや広がりを持つことができました。

**教訓** 多くの避難者が、物の支援だけ望んでいるのではなく、「震災のことは過去ではなく現在も続いていることを忘れないでほしい」という思いが強くなるということがよくわかりました。

### 将来イメージ

避難している皆さんがゆるい関係でつながり、神奈川県内に年に1～2回避難者自身が自主的に交流会を持てる環境ができればいいと思います。



## 活動名

社会から孤立し生活困窮に陥っている方や一般金融機関に排除された方、契約トラブルに巻き込まれた方など、経済的な問題を抱えた方を支援する各相談機関合同によるワンストップ相談会の開催と告知活動

## 協同した団体

★NPO いわて生活者サポートセンター ★県社協・盛岡、北上、釜石、一関の各市社協  
★盛岡市消費生活センター ★岩手弁護士会消費者問題対策委員会

## 活動内容概要

「くらしとお金の安心合同相談会」の開催  
(盛岡市4回、北上市1回)

相談会告知のためのチラシ作製および関係機関への訪問活動

訪問先は、各自治体、消費生活センター、周辺地域社協、各地区活動センター、老人福祉センター、各生協、医療機関、大手企業労働組合等、全110か所に訪問活動



## 他団体と協同することで発見したこと

協同した団体の各種制度の学習、また他団体と相談に同席することで、話の聞き取り方や進め方など各相談員のスキルアップにつながりました。また、他団体と最近の相談傾向などの情報交流を通じて、事例研修にもなりました。そのほか、岩手弁護士会の協力により相続や離婚問題になど幅広い問題に対応できるようになりました。

## 成果と教訓

**成果** 前年度、盛岡市における合同相談会の相談件数が30件に対し、今年度は62件と相談件数が倍増しました。この要因として、本助成金を活用した告知活動による訪問先が前年度84件から今年度は110件に増加したことや、弁護士会との協業により幅広いニーズに対応できるようになったことが考えられます。また、合同相談会を定期的開催することにより、協力相談機関においてもこの相談会が恒例化しており非常にスムーズな運営となっております。

**教訓** 相談会に来ていただいた方々から、告知で初めて各相談機関について知ったという事や、相談機関の名前は知っていても実際にどのような活動を行っているのかわからなかったという声があり、今後も周知活動に力を入れていかなければならないと感じました。また、さまざまな問題を抱えた方が多々おり、一つの相談機関で問題を解決することがむずかしくなっている現状を改めて感じさせられました。

## 将来イメージ

各相談機関が他の相談機関の制度を学習することで、相談に訪れる方がどこに相談しても様々な制度について説明を受けられるような環境を構築できるような情報交流を図ることや、事例等を様々な団体へ紹介することで、困っている方が行き場を失わないようにします。





## 活動名 まちなかくらし助け合い活動

協同した団体 ★地域福祉ネット まちなかサービス

### 活動内容概要

- 地域住民が気軽に立ち寄ってお喋りやお茶を飲むこともできる場所をつくる。
- 生協利用者の商品引取りの場所として、また空き家の利用で地域活性に貢献する。
- 在宅での生活を継続してもらうために高齢者・障がい者の見守り・暮らし支援を組み合わせる。

### 他団体と協同することで発見したこと

今年度も夕食宅配(弁当配達)の“ついでに”行う簡単な生活支援活動は減少傾向にあります。

家の内外に関わらずご高齢の方は困っていることが多いこと、簡単に出来ると思う事でも高齢の方には難しい場合が多いこと、困り事が一つあると大抵色々なことで困っていることが繋がっていることに気付きます。

まちなかステーション交流会の商品学習会では、鳥取県の誇る「(株)はりまや」のこんにやくと納豆の保存方法と下ごしらえについて、「大山乳業協同組合」の学習会では、美味しさの秘密やこだわりどころを教えて頂き、参加された皆さんに大変喜んでいただきました。



### 成果と教訓

- 成果**
- まちなかステーション利用組合員は、4月の移動時点での7名から、3月時点では19名になりました。移動や脱退があったものの、交流会や試食会で、新規加入・利用再開につなげることができました。
  - 年度当初に年間5回の交流会を計画、予定通り敢行する事ができました。
  - もっと気軽に集まる機会を増やす為8~10月で10回の「生協説明会」、11月から隔週で計10回の交流会を縮小した「交流会ミニ」を併せて開催しました。



「交流会ミニ」の様子

- 教訓**
- 「まちなかステーション交流会ミニ」は、今年度移転した「まちなかステーション」が内在する自治会には米子市社協が推奨している高齢者サロンがなく、集う機会として始めたらどうかと協同した団体の提案で実現しました。
  - 自治会長と福祉委員にお話をし、地域密着型として回覧板で地域内での広報活動を進められました。
  - "集う場所"を作ったことで、同じ町内でもなかなか会う機会が無く交流会で久しぶりに再会をされ喜ばれました。

### 将来イメージ

- まちなかステーションでのサロン活動が盛んになり、県外からも視察にきていただけるような地域になること。
- ステーションに誰もが気軽に立ち寄れる“糶町地域”の拠点となること、また、意見箱の設置により、警察や行政にも地元住民の意見が吸い上げられる地域になること。
- 万が一災害が起きたとしても、隣近所のネットワークで逃げ遅れの無い地域になること。



## 活動名

地域や暮らしから連携課題を浮き彫りにし、  
具体的な連携のカタチを共に描いていく

## 協同した団体

★島根県農業協同組合   ★生活協同組合しまね  
★社会福祉法人松江市社会福祉協議会   ★松江地区社会福祉協議会会長会

## 活動内容概要

あらたに発足した「地域つながりセンター」と地域の諸団体に呼びかけ参加していただき、「あったか地域づくり協議会連絡会議」を組織し、数ヶ月に及ぶ準備を経て、くらしや医療・介護などの地域が抱える5つのテーマでグループセッションを約1ヶ月にわたり5会場でグループごとに開催しました。3月3日に、グループセッションのまとめ・特別講演を「第5回 地域ケア連携推進フォーラム」として開催し、その翌日に、「地域包括ケアとソーシャルワーカー協同組合と社会福祉協議会に求められる機能」をテーマに講演会を行いました。



「第5回 地域ケア連携推進フォーラム」の様子



グループセッションの様子

## 他団体と協同することで発見したこと

昨年までは、主催する6団体を中心とする組み立てでしたが、今年度からは地域で様々に活動しておられる多数の団体と共催し、テーマの設定の段階から協議を重ねる形で進めました。そうした取り組みは、各グループセッションの内容の充実はもちろん、互いの組織を知り合うことにもつながり、今後の具体的な協同、連携づくりの大きな1歩となりつつあります。

## 成果と教訓

**成果** これまでのフォーラムとは比較にならないほどの地域の団体が参加しました。NPO等のアソシエーション型はもちろん、民生委員、福祉推進委員等のコミュニティを基盤に活動しておられる方々からの参加の広がりや、新たな活動、組織づくりの可能性を示唆するものでした。テーマについても、高齢者に限らず、若者が抱える問題にも焦点があたり、今後は、子育て層なども含め、より広い視点からのテーマ設定にもチャレンジしていくことを通じ、地域福祉づくりを模索していきたいと思えます。

**教訓** グループセッションには、行政の実務者の参加もあったが、地域住民の様々な活動については必ずしも十分に把握が行われていない様子でした。今回のような集まりを重ねることで、さらに地域の諸団体のつながりをより強め、行政等の地域施策などに、くらしや地域、活動実践等の視点から提言等を行っていききたいと思えます。

## 将来イメージ

昨年度、8つの団体で組織した「地域つながりセンター」で引き続き、地域の諸団体が一堂に会し、テーマ設定の段階から交流し、連携を深めるための企画を継続したいです。同時に、同センターは日常的な連携のためのコア組織の確立をめざして設立されており、連携活動を、より日常的なものとして確立していくとともに、全県的な展開にむけた活動を行っていききたいです。



# 広島県生活協同組合連合会

## 活動名

地域活性化研究会による地域活性化策の生協事業モデル、指針づくり

## 協同した団体

- ★一般社団法人リエゾン地域福祉研究所
- ★広島県生協連会員生協  
(生活協同組合ひろしま、広島中央保健生活協同組合、広島医療生活協同組合他)
- ★広島修道大学
- ★広島市佐伯区役所   ★中国新聞社論説委員会

## 活動内容概要

広島県生協連は2020ビジョンで、「誰もが安心してくらすせる持続可能な地域コミュニティの再生をめざして」地域循環型社会経済システムの形成に貢献することを掲げています。高齢化・少子化とともに地域でささえあいやコミュニティが減退し、組合員の暮らしに関する食の問題や医療・介護問題、そして地域コミュニティなどの問題が日常生活課題化し、地域での孤独化・孤立化が社会的な課題となっている中で、「地域」を活性化するために何が必要か、生協が果たす役割は何かについて研究をすすめました。



- 研修会の開催(6回)
- 実践事例視察(2回：広島県神石群神石高原町、福島県)
- 報告会の開催(1回)

## 他団体と協同することで発見したこと

行政や学識者が生協をどのように見ているか、生協に何を期待しているかが、研究会を通じてわかりました。また、委員からの提案として、他の協同組合と連携して地域貢献をするために、「地域協同組合」という生協の理念に基づく新しい仕組みの提案がありました。

## 成果と教訓

**成果** 10月23日に開催した地域活性化研究についてのシンポジウムにて、会員生協の組合員リーダー、役員、幹部役職員130名と地域で何が起きているのか、また、生協の地域での役割について皆で考え、共有できました。また、11名の委員全員から提言や、委員の繋がりにより、広島県生協連は2015年度に体制を強化し、暮らしに係る事業全般の活動を強化するために選任担当を配置することになりました。

**教訓** 地域の再生には、地域ぐるみで諸問題に対処し、地域の活性化を進める合議的な組織が必要であることや、地域で起きていることを生協はもっと知る必要があります。地域で活動するためには、地域の中心となる人づくりや、生協の活動をもっと広報するほか、生協間、協同組合間の連携が今まで以上に必要であるとわかりました。

## 将来イメージ

地域活性化研究会最終報告を、広島県内の生協の今後の事業全般の指針として、会員生協だけでなく、広島県の協同組合や、行政、地域のNPO法人と連携して取り組むことのほか、生協活動の広報強化、2015年度から体制を強化することにより、行政や地域の諸団体との連携を強化し、地域の活性化を推進していく。





## 活動名

牛久市での移動店舗による買物支援・生活支援

## 協同した団体

★牛久市

★牛久市社会福祉協議会

★牛久市地域包括支援センター

## 活動内容概要

- ・移動店舗による買物支援活動を行いました。  
(2015年3月末現在、57停留所で週約250名が利用。)
- ・牛久市買物支援・支えあいのまちづくり推進協議会を結成して3年目となり、協議会メンバーである牛久市・社会福祉協議会・地域包括支援センター・地域諸団体と連携した事業推進を図りました。
- ・ふれあい便活動交流会を2回開催し、停留所づくりに関わった行政区区長や地域諸団体での交流を図りました。
- ・ふれあい便健康教室を4回開催し、高齢者に関心が高いテーマでの学習を行いました。
- ・毎月19日を『食育の日』として食育の日イベントを行いました。市健康管理課が主体となり、巡回先の停留所に保健師や管理栄養士が随行し、ヘルシーメニューの試食や健康増進のための啓発活動を実施しました。
- ・市イベント会場において移動店舗車両を展示しました。
- ・広報紙『ふれあい便だより』の発行・配布を通し、行政区役員・地区社協役員・地域諸団体役員・推進協議会メンバー向けに活動報告・取り組み事例の情報を提供しました。



## 他団体と協同することで発見したこと

コープ単独では困難な停留所づくり・利用希望者探しがスムーズに進み、地域の方々との連携・協同により生み出される大きな力を実感しました。品揃えやサービス面での意見・要望について、利用者の立場からの声を様々な取り組み・イベント等を通じて何うことができました。

## 成果と教訓

- 成果**
  - ・ふれあい便の販売高は着実に伸長しました。年度累計での販売高1,550万円(前年比117.7%)、客数13,521人(前年比104.0%)客単価1,146円(前年比112.8%)、日商59,850円(前年比115.5%)、停留所は牛久市内62行政区の内、24行政区で停留所を設置することが出来ました。
  - ・前年度の取り組みであった“健康相談会”が、バージョンアップして、“食育の日”として、牛久市健康管理課主導で自主的に毎月(19日)開催されるようになりました。
  - ・2014年8月に車両を更新して、取扱い品目UP・品温管理レベルが向上しました。

- 教訓** 『食育の日』のイベントについて、牛久市(健康管理課)の高齢者に対する健康啓発活動と移動店舗利用客の対象者が重なり合っているため、牛久市と当生協のウインウインの関係で連携でき、行政に“当事者意識”をもって自発的に取り組んでもらえることとなりました。

## 将来イメージ

2015年度は、空白行政区での新規停留所づくり/担当行政区長と利用低迷している停留所の対応策協議/御用聞き注文を増やすことにチャレンジしたいです。



## 活動名

～みんなでつくろう～ 春のお料理会

## 協同した団体

★みやぎ生活協同組合

## 活動内容概要

宮城県石巻地域に散在する133の仮設住宅団地中、37団地の自治組織(自治会・世話人会)を会員としています。会員団地の入居世帯は石巻地域の全仮設住宅世帯の半数以上を占めています。被災住民自身が主体的に参加しつつ、行政・支援団体との協同を行ってきたという点で、被災地でも他に例のない先進的な団体であり、仮設住宅住民のコミュニティ形成と交流に大きな役割を果たしています。

年間を通じて様々なイベントを実施していますが、今回の事業は支援の手があまり入らない小規模仮設団地の住民を対象に企画しました。マイクロバス2台を利用し、近隣市にある会場で花見を楽しむとともに、参加者自らが地元の食材で季節感ある料理を作ることで親睦を深めました。帰路途中の「米山道の駅」では、満開のチューリップ畑を見学し、盛り沢山の活動となりました。



## 他団体と協同することで発見したこと

同じような悩みを持つ住民同士が交流し情報交換することで視野が広がり、復興公営住宅へ移行する中での共通の悩みや不安を共有できました。今回の取り組みでは、活動費の助成をいただいただけでなく、みやぎ生協大橋店さんのご協力で、料理会の食材調達等でもアドバイスをいただき、食事会を兼ねた有意義な交流ができ、親睦を深めることができました。

## 成果と教訓

**成果** イベント告知はチラシ配布と自治会長・世話人への直接案内を行った結果、42名に参加いただくことができました。そのなかには過去に仮設住宅に住んでいた方もいらっしゃいました。みやぎ生協と協同実施した料理づくりには、全参加者の3割が参加しました。

**教訓** 東日本大震災から4年目を迎え、物資や義援金・ボランティアが減少し、支援の形態も変わってきました。被災者や仮設住宅住民自らが交流の場を設定し企画していくことが求められていると感じます。復興公営住宅への移行が進み、仮設住宅の住民が少なくなっていく中で、いかに生きがいある暮らしを生み出し、引きこもりや孤独死を防ぐかが大きなテーマとなっています。今回の企画で住民同士の横の繋がりが生まれ、住民自らが主役になることの喜びや大切さが分かってもらえたと思います。

## 将来イメージ

今回参加を呼びかけた小規模団地でも、復興公営住宅への移行が進む中、住民の減少は避けられない状況です。将来を見据えた新たなコミュニティ形成を図る上でも、仮設住宅どうしの繋がりを維持・継続し発展させる取り組みは重要であると考えています。当自治連としては、他団体との連携を取り合いながら協同を進め、仮設住宅、復興公営住宅住民の福祉向上のために様々な交流イベント、勉強会等を企画して参ります。







# 生活協同組合コープながの

## 活動名

くらし支えあいをひろげるための学習とつどい  
「くらし支えあいボランティア講座」「認知症と介護について話す集い」

## 協同した団体

★長野市社会福祉協議会      ★認知症の人の家族の会長長野支部

## 活動内容概要

### ●「くらし支えあいボランティア講座」

地域でのくらしの支え合い活動の中心として期待される人材の発掘・育成を目的とし、スキルアップに繋がる多彩なカリキュラムとしました。傾聴、車椅子学習、調理実習、認知症学習、参加者ディスカッションなどで、ボランティアや地域の支え合いについてより広く浅く学び、地域のくらしに目を向けることや、自身のボランティア活動への可能性も考えることができたようです。長野市社協、車椅子ボランティアグループ、市の出前講座、コープの助け合い活動など様々な方に講師を担っていただきました。



### ●「認知症と介護について話す集い」

認知症や介護に関して悩みを抱えている方に対し、情報提供と交流の場をつくり、気持ちを軽くしてもらえるような集いを県内4会場で開催しました。前半は、認知症にまつわる専門知識や最新情報を得ていただき、後半は参加者どうしで介護について日ごろの悩みや不安を話し、他の方の発言を聞きました。一人で抱え込んでしまいがちな気持ちを話せたことで参加された方はリフレッシュし元気になっていただけたと思います。



## 他団体と協同することで発見したこと

- ボランティア団体の自発性を目の当たりにし、生協の活動の中でそうした精神をどう受けて生かすかという課題を与えられました。
- 団体同士がつながろうとする意思をコーディネートすることの重要性を感じました。
- 生協の力（組合員数・複数の情報媒体による情報提供力、組合員の意識など）に対して多くの期待が感じられました。同時に積極的役割を求められていることの自覚を促されました。

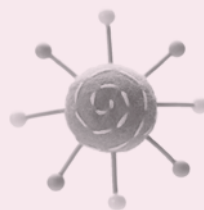
## 成果と教訓

- **成果**
  - 「ボランティア講座」では受講後にボランティアセンターへ人材登録されたり、助け合い活動の中で自分が行える範囲の拡大につながった事例がありました。
  - 「認知症と介護について話す集い」では参加者同士で話すことで心が軽くなったという感想や定期開催を希望する声が寄せられました。
- **教訓**
  - ボランティア講座は入門編として設定しましたが、2日間・10講座でハードルが高いと捉えられ参加者数が伸びませんでした。
  - 介護を行う人は気持ちに余裕がなく、孤立しがちである実情が分かりました。

## 将来イメージ

- 地域のボランティアやくらしの助け合いの活動への入口となるよう、様々な年代の方が気軽に参加できる講座にしたいと思います。運営面では行政や他団体との協同を一層深めることも重要になります。
- 介護に携わる方は時間的余裕がないため、今後は「片道30分圏内」「定員は数名」「交流重視」など参加しやすい工夫が必要です。費用効果優先の判断でなく、地道に続けることも大切にしたいと思います。

テーマ  
2



命を守り、  
その人らしい生き方が  
できるようにする









## 活動名

東日本大震災 復興支援まつりの開催

## 協同した団体

★神奈川W.Co連合会

★NPO法人WE21ジャパン

★NPO法人地球の木

## 活動内容概要

### まつりの内容

- ①復興支援活動に関する展示、試食、カンパグッズ等の販売
- ②復興支援を目的とした模擬店
- ③被災現地の被災者ならびに支援団体の展示、販売、カンパ等
- ④福島原発事故ならびに脱原発に関する活動展示・アピール等
- ⑤復興支援、脱原発に関するアピール、ステージイベント等

●開催日：2014年11月29日(土) 10:30~13:30

●会場：横浜市中区 山下公園

●来場者数：約4,000人/売上げ金額合計：約330万円

\* 売上金の5%はカンパ金として実行委員会が支援する団体へ均等割りでカンパします。



## 他団体と協同することで発見したこと

様々な団体と協同して開催準備を行うことで、団体間の連携を高める機会となりました。また今年度は共生地域創造財団（仙台）とかながわ福祉移動サービスネットワークも実行委員会に加わったことで討議により一層の広がりができ、被災地との連携も強まりました。

## 成果と教訓

**成果** 14年度の課題としては、前年度より多くの参加を広げることでしたが、参加団体数は73団体から80団体へ、後援団体は18団体から20団体へ、協賛も80団体から114団体へと大幅に広がりました。開催当日は雨のため開催時間を1時間短縮（10:30~13:30の3時間）したにも関わらず、約4,000人の来場者があり、出展団体と来場者、団体同士の交流があり、復興への意識を共有することができました。

**教訓** 参加団体アンケートから「開催趣旨にあったおまつりであり、参加してとても良かった」という評価を多くいただきました。全体としてはまつり開催趣旨・目的は達成できたと総括しています。復興・支援、脱原発を風化させないために、復興支援まつりは継続する必要があります。次年度の復興支援まつりについては、課題を踏まえた対策をこの実行委員会で検討し、次につなげていきます。

## 将来イメージ

次年度も継続して復興支援まつりを開催します。震災復興・脱原発社会に向けた活動を風化させないで継続していくことは次年度以降も継続した課題です。また被災地（復興地）の市民からの報告では「忘れられることが最大の悲しみ（苦しみ）」とされています。岩手・宮城・福島で暮らし、生産し、活動する市民と首都圏で生きる市民との交流を継続して行うことでこれからの新しい連帯につなげていきたいと考えます。



## 活動名

被災地区伝統のお祭りの山車製作ボランティア支援

## 協同した団体

★生活協同組合コープあいち

## 活動内容概要

### ●うごく七夕まつりに向けた山車製作作業へのコープあいち組合員ボランティア支援

7月21日 仮設住宅集会所での花づくり

7月22日 仮設住宅集会所での花づくりと山車の飾り付け作業

コープあいち組合員による岩手県陸前高田市の祭への参加協力は今年で3年目を迎えました。今回の助成対象となった山車製作作業には、市内各地の仮設住宅で分散して暮らす住民も作業に駆けつけ、一緒に花づくり（装飾品づくり）と山車の飾り付け作業を行いました。



## 他団体と協同することで発見したこと

- 震災により存続が困難に陥っていた伝統の祭を存続させることが出来ました。
- 住民が行う山車製作段階からコープあいち組合員が参加することで、住民とコープあいちの絆はさらに深いものになりました。
- 3年連続で共同作業を進め、地元の踊りを一緒に踊ることを通し、自然な流れで個々の住民と組合員のつながりが深まりました。
- コープあいちから祭へ参加することで、災害からの復興をめざすコミュニティの現状や課題についてを自分事として学ぶ貴重な経験と評価され喜ばれています。

## 成果と教訓

**成果** 開催困難に陥った伝統の祭を継続できたことは、被災者を含む住民どうしのつながりや心の支えになりました。また、コープあいち組合員とともに仮設住宅に散らばった住民も作業に駆けつけたことで、住民と組合員の新たな交流が深まりました。外部との付き合いに慣れていなかった地域が、コープあいちとの交流を通して新しい支援者の受け入れ等、協働活動に取り組みきっかけづくりになりました。

## 将来イメージ

来年以降は祭会場である、陸前高田市中心部の嵩上げ工事が本格的に始まります。



## 活動名 なんゆう祭2014

協同した団体 ★奈良県 ★奈良県五條市 ★奈良県生活協同組合連合会

### 活動内容概要

ならコープは、地元のさまざまな企業・団体と連携し、吉野地域に対する関心を高め、地元産業の振興に寄与することを目的に「吉野共生プロジェクト」として活動を行っています。吉野共生プロジェクトを推進し、「紀伊半島大水害」からの復興と特産品の生産・販売の振興等を目的に、2013年度に引き続いて、南部・東部地域活性化イベント「なんゆう祭2014」に物産ブースを中心に参加しました。



イベントでは、組合員参加を呼びかけるとともに、ならコープ40周年記念企画と位置づけ、記念レセプションなどに招待できなかった活動組合員への優待企画として案内しました。また、ならコープ独自企画としては、ウォーキング「歴史をたずねてウォーク」と会場内でのクイズラリー、チラシ持参組合員への参加賞配布を実施し、多数の参加を得ました。

### 他団体と協同することで発見したこと

県含め行政との信頼関係性が築けました。

### 成果と教訓

- **成果**
  - ・ 全体企画、参加人数：南部東部地域物産展に約 20,000 人の参加がありました。
  - 各企画への参加者数：ラフティング体験 (100 人)、やな漁体験 (200 人)、あかね染め体験 (20 人)、柿狩りおよび柿の渋抜き体験 (50 人)、五條新町ウォーク (50 人)
  - ・ ならコープ独自企画には約 1,500 人が参加しました。
  - ＊物産展(店)参加 18 団体<移動店舗紹介・販売含む>
  - 各企画への参加者数：歴史をたずねてウォーク(約 100 人)、抽選会参加(約 500 人)、クイズラリー(約 650 人)
  - ・ 水害からの復興に取り組んでいる県南部物産展に多くの組合員が訪れることで、地域の産業復興に寄与することができました。

### 将来イメージ

紀伊半島大水害からの復興支援活動であった「なんゆう祭 2013」(川上村にて開催)、「なんゆう祭 2014」(五條市にて開催)など、地域の様々な取り組みにならコープへ参画要請されることは、ならコープが地域社会に貢献できる事業体であることが認められた証と言えます。2015 年度も引き続き参加要請がありました。また、奈良県南部東部の市町村との関係づくりもすすみ、2015 年 6 月に川上村とは、県内で初めてとなる「地域包括連携協定」を締結しました。奈良県が掲げる「奈良県南部・東部振興基本計画」への協力要請もあり、県行政とともに地域振興に取り組んでいます。



# 支援者のための支援センター TOMONY



## 活動名

東日本大震災の被災者支援に取り組んでいる人を支援する活動

## 協同した団体

★みやぎ生活協同組合

★一般社団法人 コミュニティ・4・チルドレン

★地域社会デザイン・ラボ

## 活動内容概要

### ①支援者のための支援の場の提供

- 支援者のためのリフレッシュプログラムの実施「リフレッシュツアー in 鶴岡」
- 「支援者のための『TOMONY カフェ』『TOMONY サロン』」の開催

### ②支援者の支援をひろげるために

「TOMONY フォーラム」を開催し、先進団体である FAMH との交流、翻訳資料などから得られたノウハウをまとめた TOMONY 冊子を作成し、シンポジウムの中で紹介。

### ③国連防災世界会議関連パブリックフォーラムへの関わり

- 「被災者の心を支えるために～東日本大震災のこれまで、そして今後の災害に備えて～」
- 「支援者のための心のリフレッシュプログラム」

### ④事務局会議（月1回）の定例化



石巻でのサロン



## 他団体と協同することで発見したこと

- 東日本大震災の発災から4年が経過し、支援活動は地元への負担が徐々に大きくなってきています。日々の活動に追われ周りが見えなくなっているときに、他団体と協力することで状況把握が的確になり、視野を広げることが出来ると感じています。
- 活動の目的である「支援者への支援」は、様々な団体と連携することにより対象者に情報提供することが出来ます。

## 成果と教訓

### 成果

- 「TOMONY カフェ」「TOMONY サロン」の定期開催を通し、支援活動や支援者に関心をお持ちの方々と対話することで「支援者の支援」を広げることができました。
- 沿岸部で出前サロンとして開催したことで、昨年より多くの方に参加いただきました。
- 本活動の先進団体である FAMH との交流の中で、支援者の支援についての一端を学ぶことができました。その際、大学の先生などの専門職とのつながりもできました。先生方の協力を得て、TOMONY 冊子「支援者を支援するために」を作成し、広報を行いました。
- TOMONY フォーラムを開催し、70名の方に参加いただきました。

### 教訓

今年の活動は「仙台市内で開催します」から「TOMONY が沿岸部に行きます」という考え方に変更しました。そのことで支援者の支援が待たれている沿岸地域からのサロンやリフレッシュツアーへの参加が増えました。

## 将来イメージ

- 支援者支援に取り組む団体と更につながること、活動の交流や広報を広く実施していきたいです。団体間の情報交換を通じ、地域の課題が明確化したいと思います。
- 震災での被災者を支援している方のみを支援者にとらえず、あらゆる支援をしている方に支援が必要であることを広報していけるよう、当事者団体の方々と繋がることも考えていく必要があります。





## 活動名

東日本大震災後に生まれた多種多様なコミュニティの  
存続のための運営支援

## 協同した団体

★みやぎ生活協同組合

## 活動内容概要

- 受注発送センター・ショップ・販売サイト運営継続
- 倉庫管理業務効率化・物品整備
- 企業・支援団体への広報
- 新手作り商品カタログ vol.2 および vol.3 の発行



## 他団体と協同することで発見したこと

- 様々なイベントに出展することをきっかけとし、各団体と顔合わせさせていただくことによって、直接やり取りさせていただく関係へと、どんどん深く繋がっていくことができました。
- 他団体との交流を通じて、「些細な事でも、違和感を感じるかどうかが大切である」といった新たな指針を学び、体得することができました。

## 成果と教訓

**成果** 活動が5年目となり、それぞれの手しごとコミュニティの販売売上では右肩下がりになるなか、当受注発送センターの売上は知名度の上昇とともに伸びています。みやぎ生協の広報支援もさることながら、存在を知ってもらえれば購入いただくことができると実感しています。ただ売り上げをあげていくばかりではなく、次につながる受注生産を受けることもできており、受注コーディネートをおこなう立場で、作り手のみなさんの定期安定収入につなげる事ができるようになったことは大きいと思います。また全国の生協や社協など40団体とつながりを持つことができました。

**教訓** 生協は常に組合員の目線に立って活動されているだけあって、一つひとつへ物事へのこだわりがあり、カタログ製作でも、たびたび意見や指摘をいただきました。指摘の多くは納得性の高い内容であり、多角的な視点の持ち方の勉強になりました。

## 将来イメージ

当団体のコミュニティがきっかけで、地域に次々にコミュニティが形成されていき、その結果として地域社会が活性化されることを目指していきたいです。

# 生活協同組合あいコープみやぎ



**活動名** お茶っこケア 地域サロン よってがいん

**協同した団体** ★NPO法人お茶っこケア ★NPO法人井戸端介護

## 活動内容概要

- 東日本大震災で津波被害にあった宮城県石巻市渡波地区にて、被災された高齢者や障がいを持つ方など、どなたでも寄り合える地域サロンを開きました。サロンでは昼食作りや合唱を通じ、心身ともにリラックスし皆が笑顔でいられる居場所作りを心がけました。
- 2012年度より活動を継続していますが、今年度は新たに「認知症セミナー」を開催し、地域に根ざしたコミュニティー再生に向けた活動に取り組みました。
- 震災以降中止されている「渡波盆踊り大会」に代わるものとして、地域の方々と「渡波西部地区秋祭り2014」に参画しました。
- 「宮城県原子力防災訓練」に参加しました。この避難訓練を基に、東日本大震災・津波への防災意識だけでなく、原子力防災への取組みを考え避難準備を強化しました。



## 他団体と協同することで発見したこと

よってがいんを応援拠点に、他団体と連携して秋祭りに参画したり認知症ケアを開くことで、地域への広がりができました。よってがいんの開所日も週4回から週6回に増えました。

## 成果と教訓

### 成果

- 地域サロン活動**  
定期開催により利用者交流も深くなり地域に定着してきました。あいコープみやぎ組合員による昼食作り支援は、利用者の主体性を重視した調理サポート応援活動へと発展しています。
- 認知症セミナー「地域で支え合う認知症ケア」(50名参加)**  
老いていく過程を地域でどのように支えていけばいいのかをNPO法人井戸端介護代表の伊藤秀樹氏に伺いました。宮城県内で関心のある人も参加し、他団体との繋がりが広がりました。
- 渡波西部地区秋祭り2014**  
地域住民の皆さんと顔なじみとなり、当活動を知ってもらう機会となりました。地区長の皆さんとの繋がりもでき、2015年度に向けた地区祭りへの参画も決まっています。
- 平成26年度宮城県原子力防災訓練**  
この避難訓練を基に、東日本大震災・津波への防災意識だけでなく、原子力防災への取組みを考え防災対策を強化し備品などをそろえることに繋がりました。

**教訓** 介護保険制度の第6期見直しをきっかけに、地域サロンを拠点に地域福祉をどのように進めるべきか考えさせられました。復興状況は道半ばのため、他団体との連携と繋がりは時間をかけて長いスパンで構築する必要があると感じています。

## 将来イメージ

よってがいんのある石巻渡波地区は、大規模復興住宅地域です。学校・消防署もできる予定で、幅広い年齢層が住むようになり、当活動が目指す「誰もが安心して暮らせる居場所」のニーズはますます高くなる可能性があります。地域の人々の移り変わりに寄り添いながら、旧住民と新住民をつなぐ架け橋の役割も期待されることです。今後もより多くの団体と連携しながら地域福祉拠点として活動してまいります。



# 反貧困ネット長野

## 活動名

生活困窮者等の相談・支援活動と生活自立支援活動

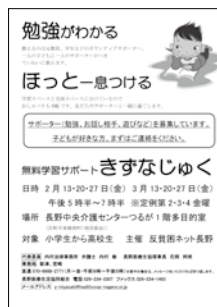
## 協同した団体

★長野生活・就労支援センター  
★NPO法人なかじょう

★シングルマザー支援協会長野県支部

## 活動内容概要

- 生活困窮者を対象とした月1回の相談会を軸とした相談への対応に活動。
- 生活困窮者の居場所(里庵みんなの家)の運営と行事などの取り組み。
- 月3回の無料学習支援(きずなじゅく)の運営、シングルマザーの会の共催。
- 藤巻渡氏(石川県金沢北健康友の会)講演会の共催。
- 越冬企画・長野きずな村の事務局運営。
- 長野市ボランティアセンターのつどいにて、学用品交換会を共催。
- NPO法人ほっとプラス(埼玉県さいたま市)の視察。



## 他団体と協同することで発見したこと

学用品交換会は「子どもの貧困」に関心がある団体に対し、長野市で子どもの貧困にむきあうとりくみをつくろうという問題意識を投げかけ実現しましたが、「子どもの貧困」に対し様々な団体・個人が心を寄せていることがわかりました。

## 成果と教訓

### 成果

- 相談317件
- なんでも相談会11回(同時開催の交流会への当事者参加122人、ボランティア160人)
- きずな塾35回(子どもの参加573人、サポーターおよび事務局参加384人)
- 里庵みんなの家開所日数219日(利用者1829人、ボランティア352人)
- 第4回長野きずな村(全体参加者219人)
- 藤牧渡氏講演会 参加30人
- シングルマザーの会(利用者5名)
- 学用品交換会(50名以上の子ども・保護者が来訪)

### 教訓

講演会と視察行動をきっかけとして、活動を改めて振り返り「里庵みんなの家」の運営についての課題を明らかにすることができました。

## 将来イメージ

生活困窮者の相談・支援活動が、誰もが安心して住み続けられるまちづくりにつながっていくことを展望し、行政をふくめ様々な団体および個人との連携と協同をつくっていきます。来年度は特に、地域の民生委員、福祉推進員との懇談を進めたいです。子どもと保護者の居場所づくりを具体化すること、里庵みんなの家の運営について、新たな担い手作りも行っていきます。





## 活動名

2014年度第3期アレルギーサポーター養成講座

## 協同した団体

- ★NPO法人アトピッ子地球の子ネットワーク
- ★アレルギーサポートネットワーク埼玉 第2期修了者のネットワーク
- ★さいたま朝日編集室      ★生活協同組合パルシステム埼玉
- ★パルシステム生活協同組合連合会

## 活動内容概要

- 第1回 学習とワークショップ
  - 1) 食物アレルギーとリスク管理を学びました。
  - 2) アトピー・アレルギーの悩みと課題について意見交換を行いました。
- 第2回 プラン作りワークショップ
  - 1) 本活動の卒業生から話を聞きました。
  - 2) 開催するイベントの企画作りを実施。企画、広報について話し合いました。
- 第3回 まだ間に合う広報と今後の記事づくり（ワークショップ）
  - 1) 講師より記事づくりの事例を学びました。
  - 2) 文章作りと広報計画の策定を行いました。
- 第4回 プランの充実のためにすべきこと  
目的、達成したい目標、大切にすること、などについて改めて考え、話し合いました。当日の流れ、準備作業の洗い出しと、役割分担を行いました。その後の展開について検討しました。
- 第5回 プランの開催と振り返り  
実際に開催したプランについて、企画、広報、当日の流れなどを振り返りました。



## 他団体と協同することで発見したこと

外部団体を講師として招くことを通じ、参加者はアレルギーサポーターとして活動していく際の情報収集の仕方・活動に必要な視点や手法を学ぶと同時に、必要な人材の巻き込み方も学ぶことが出来ました。

## 成果と教訓

- **成果**
  - 「災害時における食物アレルギーの対応」企画はエピペンや災害食の体験できるものとしたところ定員20名のところ36名の申し込みがありました。企業からの参加者もあり、関心の高さを知ることが出来ました。終了後のアンケートでは企業の参加者を含め3名がASネットさいたまに参加表明がありました。
  - 企業参加は、イベント内の試食協力と、広報のときに後援協力を依頼した団体からの広報支援によるもので、今後の活動実施のモデルとなりました。
  - 最終講座終了後は、アレルギーサポートネットワーク埼玉チーム浦和による参加者同士のランチ会も開催、浦和の地元のレストランへのアレルギーへの理解を広めることが出来ました。
- **教訓** 今年度からは、参加者がサポーターの役割を認識したうえで、企画立案から実行までを行う能力が育めるように工夫を行いました。その結果、参加者自身が主体的に行動することができ、集客が目標を上回る結果となりました。このことは今後の活動にも生かしていきます。

## 将来イメージ

アレルギーサポートネットワーク埼玉を中心に、サポーターを増やし、自主的な活動を支援していきます。アレルギーの理解者を増やし、支えあい助け合う共生の社会を目指します。





# コモンズ葛西協議会

## 活動名

コミュニティカフェ虹の空でいきいき地域まちづくり

## 協同した団体

★社会福祉法人江戸川豊生会 ★葛西第2スカイハイツ・なぎさ自治会  
★生活協同組合コープみらい ★子育てくろーばー ★NPO法人なぎさ虹の会

## 活動内容概要

昨年度からの引き続きの助成活動です。2013年度最終コモンズ委員会で2014年度地域取り組み課題を確認しました。超高齢社会が進む街づくりとしてコミュニティカフェ虹の空を足場として以下3つの柱としています。



- ①地域の目見廻り活動
- ②カフェで楽しむミニデイロコモ体操
- ③熟年者の地域社会参加を促すマップとカフェパンフレットづくり

## 他団体と協同することで発見したこと

協同する5団体はそれぞれ日々の活動形態は異なりますが、同じ地域にくらす仲間同士であることが確認できました。社会福祉法人の地域祭りにコープみらいの食品試食やゲーム、障害児子育てグループはハンドベル演奏、NPO法人コミュニティカフェ虹の空はコーヒー提供とそれぞれの得意分野で祭りを盛り上げ、活動の場と顔見知り広がりました。

## 成果と教訓

**成果** コモンズ葛西協議会を運営実行していく中で、地域のこれから取り組む問題点認知症高齢者と地域のかかわりなどの必要性が明らかになりました。

また、熟年いきいきマップ作成により葛西地区の30を超えるボランティア団体に呼びかけを行い、打ち合わせ会を開くことにより、地域包括システムの第一段階に手が届いた感触がありました。地域には区の施設のほかに住民によるサークルや有償助け合い組織がそれぞれコツコツ地道に活動している実態が明らかになりました。マップ掲載依頼を140団体に声をかけ75団体に掲載許可をいただきました。

**教訓** 当初連携を承諾してくれた団体（自治会）が、やはり団体内の足並みが揃わず、横並びの関係が承服できないという理由で途中で活動を辞退されました。地域社会で上下関係なく対等に町を作るという願いはまだすべての人には理解していただけないということが分かりました。

## 将来イメージ

今回のマップ作製で葛西地区広域にネットワークができましたので、このつながりを来年度からの活動に生かしたいと考えています。コミュニティカフェでの認知症予防歌声喫茶やロコモ体操、脳トレは継続し葛西地区からの参加者も広く集め、高齢になっても認知症になっても、障害を持って自分らしく生き生きと暮らせる街を作りたいと思います。



## 活動名 過疎市町村における介護予防事業を協同で立ち上げる

協同した団体 ★生活協同組合コープさっぽろ ★北翔大学

### 活動内容概要

北翔大学生涯スポーツ学部との協同では、高齢者向け介護予防運動プログラムを開発し、そのプログラムを用いて健康運動指導士による運動教室「地域まるごと元気アッププログラム（愛称「まる元」）」を実現させました。過疎化と高齢化に悩む北海道内の中小市町村にプログラムを提案し、介護予防プログラムを受託して毎週1回、年間48回の介護予防教室を、3つのクラスで提供。また、コープさっぽろ、北翔大学と「まる元」に関する「事業提携に関する協定書」を9月に締結し、それまで非公式に協同してきたビジネスモデルを正式に3か年の協定と決めました。ブックレット（DVD付）を作成、配布することが可能になり、コープさっぽろ、北翔大学、NPOがそれぞれのネットワークに配布して認知度を高めることができました。



### 他団体と協同することで発見したこと

それぞれの得意分野で、最大の効果を発揮し、それが大きな成果につながることを実感しました。優秀な人材を雇用できたり、プログラムの科学性を裏付けることが可能になったりと協同することで活動に広がりが生まれました。

### 成果と教訓

- 成果**
  - 当初3市町だった「まる元」実施自治体を、年度内に8市町村まで増加できました。
  - わかりやすいブックレットを作成し、広く配布して認知度を高めることができました。
  - 「まる元」参加者数を、年度末までに1か月間延1100人以上にすることができました。
  - 2015年度に「まる元」を採用しようとする自治体、「お試し期間」を設ける自治体、社会福祉協議会などでデモ教室をリクエストしている自治体、既に実施している自治体に視察を申し込んでいる自治体が増加しています。
  - 「まる元」実施中の市町村の満足度が高く、クラスの増設提案などがみられます。

- 教訓**

それぞれ高い専門性をもつパートナーが協同する場合に、自分たちにとっては自明の事柄でも相手には理解が難しいことがあり、重要な決定をする際には、必ずパートナーに理解し、納得してもらえらるようなコミュニケーションを心がけることが重要であることを学びました。

### 将来イメージ

コープさっぽろは、道民約500万人のなかで150万人（世帯）組合員登録を達成し、北海道における「自治体が十分にできない公共サービス」の一部をソーシャルビジネスの形で分担しようと考えています。「まる元」によって＜金銭的な利益＞はなくても、「持ち出し」を伴わない持続可能な事業として発展させ、真に必要な社会貢献を実現することを通して「NPO」「生活協同組合」「北翔大」「行政」の各パートナーが、＜信頼の利益＞を得ることを、理想のイメージとしています。さらに、北海道生活協同組合連合会に所属している複数の生活協同組合との連携が生まれることも期待しています。



## 活動名

2014福島の子ども保養プロジェクトin神奈川

## 協同した団体

★神奈川県ユニセフ協会

★守りたいこども未来プロジェクト

## 活動内容概要

ウェルカムパーティー、住友重機械工業(株)横須賀製造所見学、みんなでラーメン麺打ち体験、海の公園で磯遊び、野島公園でバーベキュー、野島公園探検・散歩、柴漁港でワクワク体験、思い出のアルバム作り、自分の好きなようにカレーの顔を作ってカレーパーティ、自由時間を使い思い思いに遊ぶ等、のびのびと遊ぶ時間、周辺視察見学、食育体験等、バランスよく充実したプログラムを提供できました。



## 他団体と協同することで発見したこと

実行委員会団体はもちろんのこと、メーカーや企業など、「何か機会があれば私も協力したい」という方々が、思いのほか大勢いらっしゃることを改めて再確認しました。大勢の方々の気持ちを寄せる場となるように取り組んできましたが、「離れていてもつながっている」を、これからも大切にすすめていきたいと思えます。

## 成果と教訓

**成果** 9月より実行委員会を中心に丁寧に準備をすすめてきました。実行委員会の運営や、4泊5日の内容、子どもたちの満足度(アンケートより)、ご支援・ご協力をいただいた方々の達成感や参加感など全体的に明らかに向上しており、過去4回と比較して、すべてにおいて格段にレベルが上がったと評価できます。

(ご支援のひろがり)

第1回：32名、第2回：126名、第3回：219名、第4回：229名

今回：活動に関わった人数224名、食材・消耗品支給などの支援41団体。

**教訓** 生活協同組合応援者と学生ボランティアスタッフとの関係など、支援者が気持ちよく協力できるように配慮することや、元気にハツラツと参加してもらうことなど、大勢で支えるプロジェクトに必要不可欠だと思いました。反省点としては、浜辺用の靴(サンダル等)、の持参が統一できなかったこと等、「しおり」の内容がこちらの意図したとおりに保護者に伝わらないところがありました。「しおり」をはじめ、細かい部分の点検と確認は、より一層強化する必要があると感じました。

## 将来イメージ

福島県生協連からの要望がある限りは、かたちや規模にこだわらず、本プロジェクトを続けていきたいと考えています。





## 活動名

2014夏ふくしまっ子リフレッシュ in 湘南 & こどもの国

## 協同した団体

★生活協同組合ユーコープ藤沢市エリア会

★医療生活協かながわ生活協同組合藤沢診療所

★こどもの国

## 活動内容概要

南相馬市を中心とする3才から小学生までの福島の子ども親子30人を、横浜のこどもの国および藤沢市少年の森に招き、思いっきり遊んでリフレッシュしてもらいました。

こどもの国では横断幕に自由に絵を描いたり、泳いだり、動物とたわむれ、藤沢市少年の森ではアスレチックやキャンプファイアー、またほうとうづくりを地元の高校生たちと楽しみました。



福島の子どもたちとともに・  
湘南の会 藤沢市少年の森にて

## 他団体と協同することで発見したこと

ユーコープと協同することで安全でヘルシーな食事を低コストで用意できました。また、健康に不安を抱えている親子に医療生活協同組合が甲状腺検査を提供し、喜んでもらえました。広いこどもの国でサイクリングやプール遊びなどのびのび遊んでいただくことができました。

## 成果と教訓

**成果** 参加いただいた福島の子ども親子30名(子ども：19名、大人：11名)に仲良く、楽しく様々な遊びに挑んでいただくことができました。

スタッフは藤沢の手づくりおもちゃの会の指導でおもちゃづくり、アートの会の指導で横断幕づくり、ほうとうのお店の方と一緒にほうとうづくりなど、地域の様々な特技を持っている方たちとの交流ができました。また高校生約20名と一緒にプラネタリウム見学と少年の森でアスレチック遊びに付き添って遊び、交流ができました。

スタッフは合計約60名が協力しました。

**教訓** 安全でヘルシー、且つ低コストな食事はコープにお願いすると力強いと思いました。

医療生活協同組合の協力により、昼食をする待合室の用意や送迎の面倒を見ていただき、検査も丁寧にいただき、好評だったので続けたいと思います。

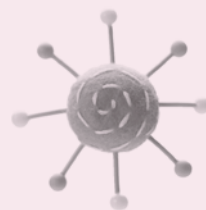
被災者と接するので、寄り添っていく事が大事だと思いました。

## 将来イメージ

湘南の様々な分野の人たちや高校生・大学生達と福島の子どもたちが一緒に遊んで交流し、お互いに知り合い、仲良くなり、大人になってもお互い助け合う関係を築いていけたらと思っています。



テーマ  
3



女性と子どもが  
生き生きする







# 水橋福祉事業所連絡会

## 活動名

いつまでも安心して、  
元気で暮らし続けられるまちづくりを地域ぐるみで取り組む

## 協同した団体

★富山医療生活協同組合

★富山県生活協同組合連合会

## 活動内容概要

いつまでも元気に暮らしたいという願いにこたえるために、高齢者の介護予防体操として有効性が実証されている「シルバーリハビリ体操」考案者の大田仁史先生の講演会を実施しました。また現存する地域の自主サークルへ過去に開いた当該体操指導者講習会参加者が講師として指導することにより、サークルの活性化と指導の場を作るという目的で「指導者派遣」を行いました(計36回)。また、独居高齢者など要援護者の孤立・孤独死を防ぐ取り組みとして、全国的に広がっている「支え合いマップ作り」活動考案者の木原孝久氏を迎えての、地域住民向けの講演会を行いました。



## 他団体と協同することで発見したこと

講演会の宣伝、参加の声かけ活動、体操指導者のやりくりをしてもらう中で、それぞれが新たな人間的つながりを広げ強めることになり、こうした活動の主催者側に立つことで周りから感謝される体験を通して、日々の生活に前向きな刺激となっていることが伝わってきました。その経過の全体から自分たち自身もエネルギーをもらいました。

## 成果と教訓

**成果** 既存のサークル集合体であるサロン梅の湯では新しいメンバーが増え、一日の平均利用者数も体操サークル立ち上げの前と後では、12.1人から14.4人に増えました(2014年3月と2015年2月の比較)。また、体操も効果が表れ始め人が人を呼び、体操サークル登録者は15人から現在30人へ増えました(サロン)。水橋東部は毎回のメニュー決めや講師探しに代表者は苦勞の連続でしたが、毎週1回開催を1年間継続しました。

孤立防止の支え合いマップづくり講演会の後には、「うちの町内でやってみたいが、余った資料はないか」と反響がありました。また、自治振興会長さん、民生委員さんと新たなつながりができ、我々の活動への理解が進みました。

**教訓** 地区公民館側との交渉の中で行き違うこともありましたが、誠意を尽くして対応することで共感が広がっていくことを実感しました。また講演会の説明をさせていただきお願いに回る中で、引き受けてくださったところとは以前より関係が深くなり、自信につながりました。

## 将来イメージ

自主サークル運営責任者の懇談会を開催しお互いの苦勞をねぎらい、メニューの共有や運営のノウハウを交流して、さらに活性化させていきたいです。

支え合いマップ作りを可能な町内などから実際に行い、口伝えも含めて広げていきます。節目としての講演会や研修会を必要に応じて開催したいと考えています。



# 大高南学区連絡協議会

## 活動名

名古屋市緑区大高南学区における  
「子どもたちの豊かな遊び場づくり事業」

## 協同した団体

★特定非営利活動法人 こどもNPO   ★大高南小学校PTA/大高南小学校  
★南医療生活協同組合

## 活動内容概要

以下の3つの活動を組み合わせ、①子どもたちの豊かな遊び場をつくること②子育て中の親と一緒に子育てする仲間と出会うこと③世代を超えて地域の中で顔の見える関係やつながりができること④子育て中の親が人や活動を知り、課題を発見、共有しながら、地域のことを(他人事ではなく)自分事として考えることができるような意識が育まれること、を目的に取り組みました。

1. 子どもの遊び場を開催 (実践活動)
2. 講演会 (学習活動)
3. まちのおしゃべりカフェ (交流→課題共有→意識啓発)

## 他団体と協同することで発見したこと

上記の協同団体以外にも、公的な機関(緑区役所、緑区社会福祉協議会など)のサポートも得られ、お互いに得意な領域でサポートしてもらえたことが活動の大きな支えとなりました。南医療生活協同組合には地域の組合員さんが多く、得意分野で子どもの育成を支えてくれる多くの人材がいることがわかりました。また、学区の役員以外にも地域の大人が子どもたちのことを気にかけて、声掛けしてくれる場面が多く、心強く思いました。

## 成果と教訓

### 成果

- **遊び場づくり事業**  
毎月1回、地域の公園や公営住宅の敷地内で遊び場を開催しました。(参加者：合計935人)
- **講演会 『遊びが育つ力ってなに?』 講師：天野秀昭氏 (大正大学 特命教授)**  
「遊び」は子どもの本能。主体性を伸ばす実体験ができることで子どもたちの生きる力がどう育まれていくか…また地域に遊び場があることで、地域がどのように変わり、地域課題の解決にどう役立つのか…子どもが豊かに育つまち「子育てしやすいまち」の実現に「場のちから」がもたらす可能性について発信しました。
- **まちのおしゃべりカフェ**  
それぞれのテーマで話題提供を行い、ひとり一人の考えや想いを伝えあい、大高南学区を子どもが豊かに育つまち、子育てしやすいまちにするために、ひとり一人が地域の中でできることを考えました。

### 教訓

乳幼児親子や学童期の親子に対する広報・情報発信には、学校、PTA、保育園、幼稚園の協力は欠かせないと学びました。開催する場所によって、集まる層が異なり、目的にそった場所の選定が要だと思いました。事業推進のための運営会議を月に1度、協同団体が参加して行ったことが課題共有のために大変役立ちました。

## 将来イメージ

父親の育児参加、地域参加のきっかけとして、親子で遊びに来て、我が子もよその子も一緒に育ちあう関係、環境を作っていきたいです。

2015年度は学区内に新しい公園がつくられる計画があり、ソフト面の人材育成として父親が遊び場を支えていくことで、子どもが地域で豊かに育っていける場をつくっていけるのではないかと考えます。2015年度は父親への働きかけを積極的に行い、地域の力につながるよう事業を継続していきたいです。





## 活動名

京都子育てスクール  
～母力を活かして乳幼児親子・子育て仲間の絆作りを～

## 協同した団体

★生活協同組合 生活クラブ京都エル・コープ ★ハッピー・ポティー  
★donan donan ★び～んずベビー教室 ★この本だいすきの会京都  
★京都YWCA親子ライブラリー ★京都エトワール合奏団 ★Atelier nico  
★MamaPHOTO HOT ★リトミカル音楽教室 ★ラボ教育センター  
★カラーセラピー講座

## 活動内容概要

多様な団体の講師たちを核に据えて、母力を地域に発信しました。0歳児対象の「京都子育てスクール」開校、講座を体験・交流できるイベント「京都子育てネットワークフェスタ」開催、母達の力をフリーペーパー(MomBoom)で発信もしました。研修会でスキルアップしながら仲間づくりを意識した講座を丁寧に作り上げてきました。チラシ、リーフレット作成も行いました。



## 他団体と協同することで発見したこと

食育、身体づくり、親子のふれあい、セルフケア、リフレッシュ応援など、それぞれの団体が得意とすることに魅力が詰まっており、参加の親子も学ぶことが多かったです。また、それぞれの講師たちの交流が活発に行われ、自分以外の活動日にも積極的にボランティアで保育をしあったり、他者の講座から学びあったりという姿が見られました。子育て親子だけではなく、協同することで講師も育ち、このような場の必要性に気づきました。

## 成果と教訓

- 成果**
  - 仲間づくりとしての成果：「子育てスクール」の参加者から、子育ての支えとなりうれしいという感想が多く寄せられました。
  - 母力が地域に広がり始めた成果：管理栄養士の資格を持つママが、広場で料理教室を開催したり、会場では、ママたちのハンドメイドサークルを自主活動として立ち上げ、積極的にチラシ作成・企画をしてくれました。
  - さらに仲間づくりの輪が広がる成果：地域に一人ぼっちのママを見つけたら、広場に誘い孤立予防・虐待予防の輪をママたちの手で広げてくれました。
  - 講師の成長となった成果：ファシリテーション研修会も身を結び、講師たちも仲間づくりを核に据えた講座の進め方のスキルが上がりました。
  - 参加者数：スクールの参加者は5～8組、フェスタの参加者は300組

**教訓** 全ての団体のもつスログや資源を通して協力したのですが、やはり保健所の検診などで、直接声をかけてチラシを手渡した親子が参加することが多く、0歳児の募集に苦戦しました。人海戦術で、まだまだ孤立している親子にダイレクトに届ける手段を広げていかなければならないと痛感しました。

## 将来イメージ

計画の段階では、今年度は0歳～満1歳児までの対象プログラムを普及させ、その後は、1歳～2歳児のプログラムの普及、そして3年目は就園前の子どもたちのプログラムへと広げていきたいと考えていました。しかし、0歳児親子を対象に行う意義の大きさと必要性に改めて気づきました。就労支援が広がり、早期に入所する家庭も多くなってきているため、今後さらに0歳児というできるだけ早い時期に、親には子育て仲間、子どもには遊び仲間のつながりを地域で広めていくことが大切だ、と実感できる親たちを増やしていきたいと思います。母力を最大限に生かして、今、孤立して悩んでいる母達に届け、親子と子育て仲間の絆づくりを土台に「循環型の子育て相互支援社会」を創るイメージを変わらず守っていきたいです。



活動名

乳幼児の子育て・食育を通して虐待予防を!  
テーマ型子育て広場の開催

協同した団体

★大阪いずみ市民生活協同組合

★社会福祉法人 松原市社会福祉協議会

活動内容概要

乳幼児の子育て世帯に対して、食育や手作りをテーマに子育て広場全20回を開催。保護者へ食育をテーマにしたおやつ作りや、地域の情報の提供、育児相談などを実施しました。また、ミニ講座や手づくり人形、小麦粉粘土などを用いた親子が一緒に楽しめるようなプログラムの提供も行いました。支援者同士の交流と開催の意図を共有し内容を充実させるため虐待予防などの観点をふくめ運営共有会議や実践研修などを開催しました。



他団体と協同することで発見したこと

世代や専門性の違う支援者が同じ広場を連続で共有することにより、支援者の連帯感が生まれました。それぞれの専門性を用いることで勉強にもなり刺激にもなりました。同じ子育て支援でも、組織で分断されていますが、支援者の繋がりが地域にもたらす効果は大きいと感じました。役割を明確にしていたので、各々の特性を活かすことができ、支援者間のささえあいが地域の子育て環境を支えることを実践をもって認識できました。

成果と教訓

**成果** 支援者間の繋がりができ、今後それぞれの事業に参画し合う関係ができました。また、「一緒にやりたい」「このまま終わるのはもたない」という声が多くあり、次年度へ反映できる事業ができたと思います。参加した親子のみならず、支援者に食育の重要性を伝えることができました。

行政の支援センターなどでは、ママ友グループができていて、なかなかその輪に入れないという親の声も聞けたと同時に、グループでの参加ではなく、一組での参加が目立ちました。育児不安の解消、虐待予防の効果をもたらしたと考えられます。

食育については、「つくるのが楽しくなりました」という声や「私でもできる、親として自信になりました」などの声あったことが、この広場の開催の成果として挙げられます。

**教訓** 悪天候などの場合は、無理に開催するのではなく、順延なども考慮し打合せをしておくべきであったと感じました。事前会議や開催時のミーティングの充実をもっとはかるべきでした。もっと多くの機関(行政や地域)をまきこむ工夫ができたのではと思います。

将来イメージ

子育て環境の充実が注目が求められていますが、民間の機関が垣根を越えた関係を構築し、それぞれがそれぞれの活動を支え合うようなイメージをもって、今後もこの広場を開催してまいります。

今回の協同事業のような形式で、団体同士が手をつなぎそれぞれがそれぞれの特性を活かした広場が点在できるようにめざします。



## 活動名 出張型子育てひろばの開催

### 協同した団体

- ★本郷地区子育てサークル「ぼっかぼか」
- ★NPO法人生涯体育学習振興機構
- ★NPO法人子どものための音楽教室
- ★NPO法人パピハズ
- ★助産師ネットワーク たね
- ★子育てサークル ママさんプラス「ふくびよ隊」

### 活動内容概要

地域での子育て支援機能の充実をはかる取り組みを実施しました。常設施設から遠距離に在住する親子をサポートしていけるよう、子育て親子が身近な所で気軽に集まり、親子同士の交流や育児の不安についての相談、子育てに関する情報提供、子育て講座開催などを実施しました。

### 他団体と協同することで発見したこと

子育てサークルやNPO団体などと参画する事により地域の支え合いができ、子育て中の当事者達の支え合いにより地域の子育て力の向上に繋がりました。

### 成果と教訓

**成果** 子育て支援内容の充実をはかる為に、常設施設から離れた場所でも子育て中の家族の集える場として、本郷公民館にて開催しました。すでに子育てサークル「ぼっかぼか」の方々が毎月2回の子育て活動をしていましたが、育児をしながらの子育て活動だったので、少しでもお役に立てる事が出来ればという思いもあり、連携しながら活動できました。初めてのお父さんひろばの開催や、助産師さんとじっくり子育て相談が出来る場が持てた事で、育児に関わるお母さんへの負担感の緩和を図る事が出来ました。開催場所が地域の公民館で出来た事で、地域の方への広報もしっかりでき、同時に地域に繋ぐ役割にもなりました。子育てママ同士が、共に助け合い支え合う活動を支援し、住み慣れた地域で安心して暮らしていける社会の実現を目指す取り組みを進めることができましたと思います。



公民館だよりに掲載

**教訓** 今までに常設施設への来所者を対象に活動をしていましたが、今回は地域に出向いていく事で、その地域の環境も知る事ができました。また少人数制のため、丁寧に講師やスタッフが関わられる場を持つ事ができました。活動していく中で、地域で身近にこのように集う場がある事の必要性を感じました。特にこの川西地区では、子育て支援の場が少ない地域であるので、今後も活動を継続したり、幅を広げたりとニーズに応えていけるように関わっていきたいと思います。

### 将来イメージ

地域で気軽に安心して遊べ、地域の大人と関わる機会を増やしていけるような活動を広げていきたいです。子ども達が親からも地域からも愛され育つ事を願い、子育て家庭を温かく見守る為に、様々な人や機関と連携しながら支援を進めていきます。





## 活動名

夏のリフレッシュツアー 京都

## 協同した団体

★生活協同組合コープふくしま ★公益財団法人京都YWCA ★ハワクカマイ福島

## 活動内容概要

「福島移住女性ネットワーク」からの呼びかけを通じて、外国人の親をもつ子ども(小中学生)と親のための保養プログラムを、多文化共生活動に長年の実績をもつ京都YWCAを受け入れ先として開催しました。メインプログラムの琵琶湖でのキャンプでは、すでに福島から京都に避難している子どもたちと一緒に福島からの子どもたちがともに過ごし、青年リーダーとともに自然を満喫し、リフレッシュしました。また引率した大人の参加者は受け入れ団体のボランティアおよび京都在住の外国にルーツをもつ女性たちと交流、情報交換、観光を行いました。



## 他団体と協同することで発見したこと

保養プログラムは福島の団体のみで実施することは困難であり、今回、京都YWCAが受け入れ団体になったことで実施が可能となりました。京都の人々にも福島の実情を知っていただくことができ、東日本大震災、原発事故を風化させないためにも他地域との協同は重要であると思いました。

## 成果と教訓

**成果** 京都リフレッシュプログラム(京都で関わったボランティア人数:延べ約30名)では、言葉の壁を超えて、両方ともうちとけた雰囲気の中で話すことができました。また、キャンプは、京都から参加した小学生にとってばかりではなく、京都・大阪在住の大学生を中心とするボランティアにとっても、震災から3年が経った福島から訪れてきた人びとと出会う機会となりました。同じキャンプ場での時間を共にしている子どもの口から、震災時の経験を語ってもらう時間をとったことで、2011年に東日本で起こった震災の経験を、<生きられた経験>として受け止める機会を作ることができたように思います。参加人数の規模や滞在日数としては小さな保養プログラムでしたが、なかなか福島から離れることのできないでいた外国人女性やその子どもたちに、京都の人々が出会い、友人としての関係を作るためのよい契機となったように思います。

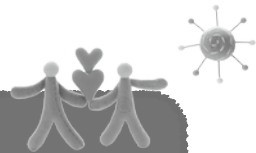
**教訓** 福島と関西の休みの時期が異なるため日程調整に苦戦しました。また移動時間を含めると4泊5日となってしまう仕事の都合から親子参加ができなくなりました。京都の受け入れ団体に実施内容がお任せになり、主催団体であるEIWANとのコミュニケーションが不足しました。ハワクカマイ福島以外の移住女性たちとの接点が少なかったため活動の輪を広げるため、よりコープふくしまに協力をあおぎたいです。

## 将来イメージ

福島県に住む外国人女性とその子どもたちへ、規模は小さくても細く長く福島に住むダブルスラッドの子どもたちが世界を広げ、リフレッシュできるようなプログラムを継続していきたいと考えています。また、そのようなプログラムを県内の移住女性に広く知ってもらうため、コープふくしま店舗でのパンフレット、ちらし、ポスター掲示などのご協力、外国人女性と知り合え、理解する多文化共生プログラムを提案していきたいです。



# NPO法人福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト



## 活動名

- 2014高松市男女共同参画市民フェスティバル
- 平成26年度西郷村リフレッシュ支援事業(香川コース)
- 「原発震災から4年…今、私たちにできること」

## 協同した団体

- ★高松市
- ★生活協同組合コープ自然派しこく
- ★香川こどもといのちを守る会
- ★NPO法人グリーンワークかがわ
- ★西郷村教育委員会
- ★高松市消防職員協議会
- ★高松市立川島小学校と弦打小学校
- ★高松市レクリエーション協会
- ★ギター・マンドリン・アンサンブル・ピアノシモ
- ★讃岐国分寺太鼓保存会
- ★NPO法人えひめ311
- ★えんじょいんと香美

## 活動内容概要

- 2014高松市男女共同参画市民フェスティバル講演会「東日本大震災から3年半、被災地ともに歩む」
- 平成26年度西郷村リフレッシュ支援事業・香川コース(12月24日～28日 4泊5日)福島県西郷村の5つの小学校から62名の6年生の子どもたちを香川に迎え、地域交流イベント(地元の小学生たちと餅つき、コープ自然派しこくオリーブセンターの皆さんによるしっぽくうどんの昼食、スポーツ・レクリエーション)、歓迎クリスマス・ミニライブなど様々な体験をしてもらいました。
- 「原発震災から4年…今、私たちにできること」  
四国の避難者へのアンケート調査結果報告、各団体の保養や避難者支援の活動報告などを行いました。



## 他団体と協同することで発見したこと

地域交流イベントでの炊き出しや餅つきなどは、こうした活動の経験豊富な団体との協同によって、とてもスムーズに行うことができました。3月7日に開催した「原発震災から4年…今、私たちにできること」では四国の他団体の取り組みの中に、今後の私たちの活動に活かせそうなことが色々ありました。

## 成果と教訓

**成果** 高松市男女共同参画市民フェスティバルの一環として開催した講演会では、3つの団体が協力しあい、また、コープ自然派しこくにチラシの折り込みをして頂けたことで、幅広い年代の人たちにより広く広報することができました。西郷村の子どもたちの受入れにあたっては、さまざまな団体の幅広い協力で、過去最多の62名の子どもたちを受け入れました。さらに3月7日に開催した「原発震災から4年…今、私たちにできること」には約100名の参加があり、その中にはその後の春休み保養のボランティアとして活動に積極的に加わったり、寄付をしてくださったりする人ができました。また、四国で避難者支援活動に取り組む他県の団体と協力して実施したことで、今後、連絡協議会(仮)を立ち上げ、さらに連携を強めていこうということになりました。

**教訓** 62名もの6年生を迎えるにあたって、携帯電話やゲーム等に関するルールをどの程度規制すべきか悩む点もありましたが、子どもたちの自主性に任せて活動を進めることも大切だということを感じました。

## 将来イメージ

時間の経過とともに風化してしまいがちな震災の記憶や被災地への思いを風化させることなく、「福島と香川をつなぐ」息長い活動を続けていきたいです。今後は次第に各種助成金なども減っていくことが予想され、財政面では厳しくなると思われますが、受け入れ人数や交通手段、受け入れの形(ホームステイ)なども工夫しながら、持続可能な活動をめざしたいと思います。また、活動にあたっては活動報告ニュースの発行やさまざまな機会をとらえての活動報告パネル展示、被災地の現状を知るための講演会等の開催など、多くの方たちに関心をもってもらえるようにしていきます。その際、幅広い団体と連携して活動することが大きな力になると思います。



## 活動名

地域に生きる子育て情報コミュニティ『知る見るCafé』  
～関東汚染地域の母親たちの子育て応援企画～

## 協同した団体

★放射能から子どもを守ろう関東ネット

## 活動内容概要

特措法上の「汚染状況重点調査地域」となった茨城・千葉・埼玉にある約40団体のネットワークである「関東ネット」の主に子育てをしているお母さん達が繋がって学び、実際の活動で集めた情報を元に、

- (A) 小冊子『知る見るLeaf』等を発行
- (B) 集う場として『知る見るCafe』を開催して語り合い、地域での子育ての活性に繋がりました。
- (C) 子どもの健康管理に役立てるようカルテ方式の『健康ノート』を金銭的負担の軽減の為に半額で販売しました。



(A) 小冊子『知る見るLeaf』表紙

## 他団体と協同することで発見したこと

「関東ネット」は「汚染状況重点調査地域」となった茨城・千葉・埼玉にある約40団体のネットワークであり、構成メンバーが主にお母さんであるため、市境・県境を越えてつながるなど、地域で有意義な情報の共有を実践できました。小冊子『知る見るLeaf』や『知る見るCafe』の内容の企画・配布や開催する場所は、ニーズの高い地域で実施することが出来たのが良かったです。

## 成果と教訓

### 成果 (A) 小冊子『知る見るLeaf』等を発行

小冊子2種類「そうだ！保養にいこう」「継続的な甲状腺検査を」とチラシ1種類を企画・作成し、計13,300部を発行し（うち4,000部は増刷）、関東ネットの所属団体、子育てママが立ち寄るカフェや八百屋さんなど様々な場所で配布しました。さらに、当団体の公式サイトからもダウンロードできるようにし大変好評でした。



市の保健センター設置の様子



### (B) 集いの場として『知る見るCafe』を開催

「保養」「子どもの健康」を主なテーマに茶話会や学習会・上映会を企画して開催、全7回、延べ330人の参加がありました。PRにも力を入れ、親子で興味をもていただけるよう「知る見る坊や」というイメージキャラクターを作成しました。

### (C) 『健康ノート』(2冊1セット、カルテ編・資料編)の半額販売

医師や専門家の方が監修した『健康ノート』を子ども達の健康管理用としてより多くの方に活用して頂くため、家計をきりつめている母親が手にとりやすい値段で販売し好評でした。

**教訓** 福島原発事故から3年以上経っての活動であるため、関心が低いのではと危惧していましたが、実際『知る見るCafe』での上映会や学習会は多くの方が参加され、とりわけ汚染地域となった場所で子育てをするうえで、子ども達の健康については関心が高く、情報を求めていることを知りました。

## 将来イメージ

東日本大震災からまる4年たちましたが、関東の一部が汚染地域になった事実は消すことはできませんし、原発から200km離れた地域での放射能汚染は、市民の暮らしに影響を与えました。今回の活動から今後は子どもの健康を合言葉に、市民・生協・自治体が広域で、災害時の「避難・環境・食・健康対策」についても、協同して地域に根ざした対策をつくっていけるよう、『知る見るCafe』のように市民による参加型の、地域の情報共有のための活動が必要であると感じました。





## 活動名 親子がいきいき育つまちづくり

協同した団体 ★めいほく子育て支援センター ★上飯田児童館  
★名北福祉会（めいほく保育園・第2めいほく保育園）

### 活動内容概要

保育士や大学教授など子育て・発達に関する専門家を招いて、3回のパパママ連続講座を開講しました。学習会の際、毎回託児を行ない参加しやすいよう工夫しました。

サポーター交流会&学習会（費用はかかっていません）と4か所の各にじっこひろばでサポーター会議&学習会を行い、とりくみの交流と発達の学習を行いました。



「にじっこひろば」の様子

### 他団体と協同することで発見したこと

3回の学習会の宣伝を、他団体に協力していただきました。保育園では保護者全員にお知らせをしていただくこともできました。日頃から学習会の共催、企画の宣伝チラシを置くなど協力関係があるため、今回も快くご協力いただけました。また、助成金事業とは直接関係がありませんが、児童館とめいほく保育園が共催する学習会に、今年も当生協から講師を派遣しています。地域の各団体との日頃からの連携が大切だと思います。

### 成果と教訓

**成果** 学習会（3回開催のべ98名参加）は毎回好評で、普段育児に追われ、時として子育てに悩んでいるお父さん、お母さんが「発達」の視点で、一歩距離をおいてわが子の育ち、自分自身の子育てを振り返るよい機会になりました。「はじめて聞く話でなるほどと思った」「今後もセミナーをして欲しい」などの感想が多く出されました。

サポーター交流会や学習会（5回開催のべ45名参加）では、自分たちが取り組んでいる『地域での子育て支援』の大切さを改めて確認できました。また、サポーターが子どもと接し、見守りをする上で大切な、子どもの発達や行動の意味などについて基本的な知識を得るよい機会となりました。

**教訓** 学習会は多くの参加がありましたが、それでも「発達などに関心の高い一部の方」の参加になっていることは否めません。参加を促すために“親子での遊び”の要素も取り入れて、「伝えていきたいこと」をより多くの方に聞いていただけるように工夫することも必要だと思いました。

4か所合同のサポーター交流会&学習会（費用負担なし）は日程調整が難しく、参加が12名と少数でした。毎年、開催場所を変更して各にじっこひろば会場を順番にまわるようにするなどして、各にじっこひろばのサポーターがまんべんなく参加できるよう工夫する必要があると思います。各にじっこひろばで開催した会議&学習会には、それぞれのひろばのサポーターが多く参加できました。

### 将来イメージ

これまでは主に0～3歳を対象に取り組みをしてきたが、今後は対象を広げ、小学校高学年位までの子どもとその保護者を対象にした発達、育ち、健康づくり、仲間づくりの取り組みもしていきたい。0～3歳の子育て支援フリースペース「にじっこひろば」の参加者と継続した関係づくりを行うことで、参加者が生協の健康づくり、まちづくりのとりくみに主体的にかかわるようになることをめざしていきたい。また、地域の児童館、保育園、学童、小学校などとの連携を模索し、「地域で子どもを育て見守る」取り組みをすすめていきたい。



## 活動名

## 未就園児親子のための森の子育て支援事業

### 協同した団体

- ★生活協同組合コープこうべ
- ★西宮市立子育て総合センター
- ★富国生命保険相互会社
- ★西宮市社会福祉協議会

### 活動内容概要

生活協同組合、企業、行政、社会福祉協議会、大学、NPOの6団体による「未就園児親子のための森の子育て支援事業検討委員会」において、コープの森・社家郷山や西宮市社家郷山キャンプ場の自然フィールドを活用した「未就園児親子を対象とした子育て支援活動」が恒常的に実施できるようプログラム(5回)の試行実施や講演会を行い、今後の具体策について検討しました。



### 他団体と協同することで発見したこと

- 各団体の視点や置かれた立場を踏まえた上で、社会的な課題解決に向けた議論や取り組みを行うことで共通認識を高めていくことができる。
- 事業対象者への活動提供、情報提供、意識調査などについて、各団体の強みを生かし相互に学び合い、協力し合うことで効率的な取り組みを行うことができる。

### 成果と教訓

- 成果**
  - 参加団体の連携により都市部でありながら豊かな自然に恵まれた西宮市の地域特性を生かした「森の子育て支援事業」の定着化に向けた条件整備を行うことができました。
  - 未就園児親子が自然の中での遊びを通じて、様々な原体験を共有するとともに、保護者が子どもを守りながら行動を共にすることの重要性を認識する機会となりました。
  - ベテランの保育士経験者がアドバイザーとして関わったことで、保護者への子育てアドバイスや発達段階に応じた子どもの自発性を育む遊びの設定への意見等を得ることができました。
  - 各団体が実施した事業(6回)に、61組164名(大人93名、乳幼児71名)が参加しました。
  - 平成27年4月に西宮市のケーブルテレビで活動を紹介する番組が放送される予定です。
- 教訓**
  - 乳幼児期における外遊びや自然体験が人間形成における重要なプロセスであることについて、保護者自らが協同体験することで認識が高まっていくこと。
  - 乳幼児期の子どもたちへの自然体験などの活動提供にあたっては、子ども自らが主体的に遊ぶことができる環境設定を行うことが重要であること。
  - 日常生活の中で火を使うことが少なくなっている中、焼き芋づくりなど身近なところから市民の生活力を育てていくことが必要な時代となっていること。
  - 循環型里山整備における森林整備や落葉堆肥づくりといった保全活動も、子どもたちにとっては「遊び」の延長であり、こうした体験を幼児期から持つことが大切であること。

### 将来イメージ

- 「親育ち・子育ての森」の活動の拠点となる社家郷山キャンプ場において、10月～3月までの6ヶ月間を活動期間として、毎月1回程度の定期的な活動を計画し広報できる体制を整える。
- 未就園児家庭が主催者から一方的に自然体験サービスを受ける場ではなく、参加頻度の高い保護者を中心に参加者自らが主体的に活動を考えることができる場となるよう運営体制を整える。
- 社家郷山キャンプ場に森の子育て事業関連物品庫を設置し、効率的に活動ができる施設環境を整備する。





## 活動名 子育て支援施設の開設

協同した団体 ★福井県民生活協同組合

### 活動内容概要

- 平成25年度より当くらぶが開設している「わくわく広場」にて月1回「親子料理教室」(生協に講師派遣や、食材提供をしていただく)を開催しました。
- 平成26年度11月に福井県民生協のマーケット「ハーツわかさ」がオープンしその2階に子育て支援施設が併設され当くらぶが賃貸契約し運営をすることとなりました。主な事業内容は乳幼児の保育(一時預かり、月極め、夜間、祝日、日曜日保育)、つどいの広場(月～金9:30～15:30)の実施です。



### 他団体と協同することで発見したこと

当くらぶは平成15年に子育て支援施設を開設しておりますが、少子化の中でも一時預かり保育のニーズは非常に高く、子育て中の母親(祖父母)にとってホッとできる時間を有すること、緊急を要するときにとっても重要な施設です。しかし、ニーズに対応できる施設を自力建設することは難しく、乳幼児が日々安全で楽しく過ごせる場を提供いただけたことは、子どもはもちろん保護者、保育者にとってこの上ない喜びとなりました。福井県民生協は子育て支援のノウハウがあり、安全面や機能的に優れた施設の建設をしていただけました。

### 成果と教訓

**成果** 預かり保育事業について：11月10日にオープンしましたが、これまで生守地区で開設していた預かり児は1か月100人、一日平均4人前後だったが、予約が増えてきて、12月より1日平均8～9人(1か月200人前後の予定)となり、今後の利用希望者が多くなると見込まれます。

つどいの広場も預かりの場と区別され親子がゆったりと過ごせる場として週3回から週5日(月～金)開設。買い物もでき、好評で利用者が増えています。利用人数も100組前後となる見込みです。

**教訓** 新規開設でしたが施設完成後に細かな部分での打ち合わせが必要だったことを認識しました。マーケットと福祉施設の複合施設のため、利用希望者以外の見学者が多く、保育時間中の対応は困難なことがありました。備品遊具の充実により保育環境が整った今後、保育内容の充実を図っていくことが大切です。

一人でも多くの方に知っていただくための広報の工夫が必要です。

### 将来イメージ

今後父親の育児参加も多くなると思いますが、親子のつどいの広場に父親の姿はほとんどなく、父親が子どもを連れて気軽に来られるような工夫をしていきたいと思えます。

現在も土・日祭日・夜間一時預かりをしています、より充実していけるように行政をはじめ色々な所と連携をしていきます。

地域の子育て応援の発信を単独ではなく、他の団体と連携を図り、様々な角度から子育て分野での地域貢献を目指していきたいです。



## 活動名

第3回みんなでふくし&ふくふくプラザまつり

## 協同した団体

- ★福岡市市民福祉プラザ・旭商会共同事業体
- ★福岡市ボランティア連絡協議会

## 活動内容概要

今年で3回目となる「みんなでふくし」を、今年は福岡市市民ふくしプラザの2年に1回の「プラザまつり」と共催という形で実施しました。

当日はホールにて、利用団体の発表会、エントランスで授産施設のバザー、エフコープの声のカタログ、コープ商品、共済、ふくし事業関連の紹介を行い、15:30～は映画上映を行いました。映画上映は市政だよりも案内した関係で事前申込み制としました。

当日参加者は1200名と昨年を大きく上回りました。



## 他団体と協同することで発見したこと

ふくしに関する取り組みの多彩さや、各団体との色々な関係性など、エフコープ独自ではとても困難な面を共催とすることで、双方の力を持ち寄ってすすめることができました。

ぷらざまつりは2年に1回開催ですが、今回のエフコープとの共催による「みんなでふくし」が大成功であったため、「毎年開催（エフコープと共催）する方向で検討します」との報告を受けています。

## 成果と教訓

**成果** 毎年改善を加え、今年はプラザまつりと共催という形ですすめることができ、プラザまつりも隔年開催から毎年開催（エフコープと共催）という形に進化して、組合員や市民にふくしについてより身近に感じていただくことに繋がっていているという実感があります。

**教訓** エフコープの機関誌での案内も行っていますが、やはり福岡市の市政だよりでの案内は効果抜群でした。エフコープだけでも43万の組合員がいるとはいえ、取り組みを進めるにあたっては色々な団体と協力していくことがとても大事だと思います。

## 将来イメージ

今後は毎年開催し、他地域での社協とも協力して同様な企画が開催できたらと思っています。





# 地域ささえあい助成

— 生協と他団体が協同する活動を応援します —

## 2014年度 募集のお知らせ

CO・OP共済は、「自分の掛金が誰かの役に立つ」という組合員どうしの助け合いの制度です。

コープ共済連はCO・OP共済を通じて豊かな社会づくりをめざしています。

その活動の一環として、生協と地域のNPOやその他の団体が協同して

地域の暮らしを向上させる活動を支援します。

全国の生協、NPO、その他の団体の皆さまからの多数のご応募をお待ちしています。

**応募期間** 2014年2月10日～3月15日

### 1 対象となる活動のテーマ

#### ①「暮らしを守り、暮らしの困りごとの解決に資する」

例

地域住民による高齢者等への生活支援のコーディネート、障がい者の就労支援、震災による避難者へのカウンセリングの取り組みなど

#### ②「命を守り、その人らしい生き方ができるようにする」

例

病気やケガで治療中の方やそのご家族への治療に専念できる環境の提供や、治療中における精神面でのサポートを通して生活の質の向上を目指す取り組み、病気の予防や早期発見を目的とする啓蒙活動など

#### ③「女性と子どもが生き生きする」

例

子育てひろばの開設・運営、出産後の再就職や社会復帰を支援する取り組み、DV被害者からの相談を受け付ける活動など

①～③のテーマいずれかに該当し、かつ生活協同組合とNPO等が協同して力を発揮することのできる取り組みであること。東日本大震災の支援に関わる上記テーマの活動については、選考で優先して取り扱う場合があります。

#### 〈対象とならない活動〉

- 生活協同組合同士の活動(100%子会社も含む)
- 生活協同組合単独もしくはNPO単独の活動
- ①～③のいずれのテーマにも該当しない活動(環境問題等)

### 2 対象となる団体

日本国内を主たる活動の場とする、下記全てを満たす団体を対象とします。

#### 生活協同組合または、その他のNPO法人等

- 今後設立予定の団体でも構いません。
- 次の①、②いずれかを必須とします。
  - ①生活協同組合以外の団体が応募する場合には、活動内容が生活協同組合と協同して行うものであること
  - ②生活協同組合が応募する場合には、生活協同組合以外の団体と協同して行うものであること
- 選考の過程で、事務局より生活協同組合に電話等にてヒアリング調査を行う場合があります。

### 3 対象となる活動期間

2014年度は、2014年4月1日～2015年3月31日の間に実施する活動が対象です。



## 4 助成内容

助成上限額は、1事業あたり100万円です。助成総額は2500万円を予定しています。

当年度において、1団体あたり1件のみ応募することができます。テーマや活動内容が異なっても、複数件の応募をすることはできません。

### ◆助成の対象となる費用

- 活動に直接関わる経費(資材費、消耗品購入費、旅費、交通費、借上費、印刷製本費など)
  - 謝礼金(講師謝礼、指導料など)
- ※ただし、活動に直接関わる団体スタッフの賃金は対象外です(下記参照)

### ◆助成の対象にならないもの

- 賃金
- 飲食費、接待費
- 助成を受ける事業以外の運営に係る費用
- 営利を目的とする事業
- その他、審査委員会が不適切と判断したもの

## 5 選考

以下の選考基準に基づき、外部有識者やコープ共済連関係者などで構成される審査委員会で決定します。

### 選考基準

- 生活協同組合と地域のNPO法人等との協同により成り立つ活動であること
- 計画の実現性
- 予算計画の妥当性
- 対象者のニーズに基づく活動であること
- 多様な地域住民の関わりや参加度
- 活動内容の新規性、先駆性(応募する活動に限らず、従来よりそのような活動を率先的に行っている実績があれば、それも考慮する)

同一の団体に継続して複数年に渡り助成を行う場合、3年を上限とします。また、審査委員会の判断により、申請より一部減額の上で助成が決定する場合もあります。

選考にあたり、事務局より電話等にてヒアリング調査を行う場合があります。

## 6 活動報告

助成を受ける団体には、活動中および活動終了後にA4用紙2枚程度の活動報告書をご提出いただきます。また、報告書提出の他に、活動状況のヒアリングや取材受け入れをお願いすることもありますので、ご協力をお願いいたします。

活動報告書の提出状況および内容については、コープ共済連のホームページや発行する冊子等に掲載し、ご紹介させていただきます。

## 7 応募方法、提出書類

※2015年5月に本部事務所移転のため、住所・電話・FAX番号が変わりました。現住所等は奥付をご覧ください。

### ①応募用紙の入手方法

コープ共済連のホームページよりダウンロードいただくか、下記のお問い合わせ先まで電子メールかFAXにてご請求ください。

URL <http://coopkyosai.coop/about/csr/socialwelfare/2014.html>

※ご請求の際には、団体名、郵便番号、住所、送り主の方の氏名、電話番号を明記してください。

### ②応募方法

応募にあたっては、下記の書類を事務局宛にご送付ください。(Email、郵送のみ可)

※FAX、持参による提出は受け付けておりません。

- 応募用紙
  - 団体設立時の定款、規約など
- (定款、規約は応募団体がコープ共済連の会員生協である場合、ご提出は不要です。ご不明な場合はご相談ください)

### お問い合わせ先

## 日本コープ共済生活協同組合連合会

渉外・広報部

地域ささえあい助成事務局宛

TEL 047-351-3356

FAX 047-351-5298

メール [kyosaiinfo@coopkyosai.coop](mailto:kyosaiinfo@coopkyosai.coop)

### 応募書類提出先

〒279-8588 千葉県浦安市入船1-5-2  
コープ共済連 渉外・広報部  
地域ささえあい助成事務局宛

過去の助成団体活動内容はホームページでご案内しています。

コープ ささえあい 報告集 検索

URL <http://coopkyosai.coop/about/csr/socialwelfare/report.html>



**CO・OP共済 地域ささえあい助成  
2014年度 活動報告集**

---

発行日：2015年8月  
発行元：日本コープ共済生活協同組合連合会  
(渉外・広報部)  
〒151-0051  
東京都渋谷区千駄ヶ谷4-1-13  
電話 03-6836-1320

---

